

《2026年2月 公開サロン（通算352回）報告》

オリンピック教育の現状と今後

ー国内・国際クーベルタンユースフォーラムのあゆみとともにー

【日時】2026年2月17日（火）19:00～21:00 ⇒ 終了後はオンライン懇親会（～22:30）

【会場】オンライン（Zoom）

【テーマ】オリンピック教育の現状と今後

ー国内・国際クーベルタンユースフォーラムのあゆみとともに

【参加者18名】◎はNPO会員、○は会員外のファミリー、無印はファミリー外（2/17時点で）

○安藤裕一（株式会社GMSS ヒューマンラボ）、○磯和明（総合型地域スポーツクラブ「くにたちエール」）、○小川雅裕（港区サッカー協会）、◎木田圭亮（聖マリアンナ医科大学）、熊澤拓也（東洋大学）、◎小池靖（株式会社バイタル）、◎小堀徹（2026年度よりNPOサロン2002会員）、◎嶋崎雅規（国際武道大学）、新谷十穂子（郁文館高校1年）、○鈴木崇正（NEC ビジネスインテリジェンス）、◎高原渉（宝塚FC）、◎橘和徳（富山中部高校／サロン2002理事）、中小路徹（朝日新聞社）、◎中塚義実（特定非営利活動法人サロン2002理事長）、○長野いつき、○皆川宥子（サロン2002）、◎野村忠明（埼玉ソーシャルフットボール協会／会社員）、○吉原尊男

【報告書作成】中塚義実

注）写真・スライドは、クレジットが入っているもの以外は中塚義実所蔵・提供

<目次>

はじめに

概要（案内文より）.....	2
国内ピエール・ド・クーベルタンユースフォーラム（国内YF）2025の紹介.....	3
I. 国際ピエール・ド・クーベルタンユースフォーラム（国際YF）とは.....	6
1. 私的「オリンピック教育」への関わりーCOREの創設.....	6
2. 国際YFの実際.....	9
II. 国際YFと国内YFーさまざまな担い手.....	21
1. クーベルタンー嘉納ユースフォーラムの開催.....	21
2. さまざまな担い手.....	25
III. コロナ禍を経てー今後に向けて.....	30
補足. “現実”に目を向けるオリンピック教育.....	37

【キーワード】オリンピック教育、オリパラ教育、国際ピエール・ド・クーベルタンユースフォーラム、日本ピエール・ド・クーベルタンユースフォーラム、国際YF、国内YF、CIPC、CJPC、JOA、CORE、クーベルタン、嘉納治五郎、田原淳子、來田享子、中塚義実

はじめに (中塚義実)

1. 概要 (1/20 配信)

「オリンピック教育」という言葉をはじめて“当事者”として感じたのは2010年の夏休み明けでした。嘉納治五郎生誕150年を機に筑波大学にオリンピック教育の組織ができるころ、「附属学校の取りまとめをやってくれないか」と当時の教育長から話があったときです。最初はお断りしました。

「せっかくスポーツが大事な“遊び”として認知されるようになってきたのに、また“教育”に戻されるようで、あまりかかわりたくありません」と申し上げました。生意気な中堅教師です（いまは生意気な若手老人）。

しかしそのうち“当事者”となり、2011年の夏到北京で開かれた第8回国際ピエール・ド・クーベルタンニュースフォーラム（国際 YF）に2名の生徒を引率します。世界のオリンピック教育を目の当たりにしましたが、それは日本で以前からやっている体育・スポーツ教育であり、嘉納治五郎やクーベルタンが目指したのは全人教育でした。後に思いました。「全人」や「オリンピック」の冠はいらない。真の「教育」を取り戻すことであると。

リレハンメルで行われた2013年の第9回国際 YF も2名の生徒を引率します。まだオブザーバーとしての参加でしたし、国内のオリンピック教育は一部で細々と為されていただけでした。それが2013年9月、2020年の東京開催が決まったことで、オリンピック教育は一気に「取り組むべき事業」として政策課題になっていきます。文科省から独立したスポーツ庁の事業として「オリ・パラ教育」は、開催都市だけでなく全国各地で行われるようになりました。スロバキアで開かれた第10回国際 YF には7名のフルメンバーを派遣できるようになり、選考会を兼ねた国内 YF を「クーベルタン-嘉納ニュースフォーラム」の名称で2015年3月に筑波大学で開催しました。

あれから10年が経過しました。

コロナ禍などの諸事情の影響で、国際 YF の今後については不透明ですが、国内 YF は筑波大学と中京大学を拠点に毎年行われています。なかなか広がらないもどかしさがありますが、いまでは CJPC（日本ピエール・ド・クーベルタン委員会）主催、JOA（日本オリンピックアカデミー）共催、JOC（日本オリンピック委員会）後援の行事となり、NPO サロン 2002 も主管団体として関わり続けています。

2月28日(土)に CJPC 総会がはじめて対面で開催され、国際・国内 YF のあゆみを研究会で報告する機会を得ました。歴代国際 YF 参加者のネットワークを作る動きも始まりました。また国際 YF を主催する CIPC（国際ピエールドクーベルタン委員会）は、創設50年（正確には51年）の記念行事を4月にオリンピアで開きます。

このタイミングで、いつの間にかどっぷりつかっている私自身の視点から、公開サロンで「オリンピック教育」を取り上げようと思います。関係者はもちろん、「オリンピック教育って何？」と思っている方も含め、さまざまな方にお集まりいただきたいと思います。

2. 日本ピエール・ド・クーベルタンユースフォーラム2025 (国内 YF2025) の紹介

NPO サロン2002 理事長の中塚義実です。話題提供をさせていただきます。

今日の案内はこういう写真で構成されています。「日本ピエール・ド・クーベルタンユースフォーラム」という事業を長らくやっており、2025年11月8～9日の土日に、オンラインと対面で実施された今年度の様子です。

一体どのような取り組みなのかを紹介してから中身に入っていきたいと思います。

11月8日(土)はオンライン、9日(日)は筑波大附属高校と中京大学に集まり、2か所をつなぎながら対面で行いました。主催は日本ピエール・ド・クーベルタン委員会。

2019年8月にできた組織です。共催は日本オリンピックアカデミー(JOA)。この組織は1970年代に、オリンピズムを広める目的で、国際オリンピックアカデミー(IOA)の日本組織として設立されています。オリンピックムーブメントに関わる組織がいくつもあって、何が何だかわからんようになっていますが、いろんなところがしっかりやっけていこうとしています。今回は後援に、オリンピック選手団の派遣母体でもある日本オリンピック委員会(JOC)が入ってくれました。主管には筑波大学のオリンピック教育組織である

CORE(コア)、そして中京大学。特定非営利活動法人サロン2002もずっと関わっています。協力団体には東海学園大学と一般社団法人A-Goal。今回のプログラムに岸卓巨さんのA-Goalが関わってくれました。これらの組織で連携しながらやっています。

プログラムをみていきましょう。初日はオンラインでの講義です。いずれも50分の高校生向け講義です。嘉納治五郎については大林太朗さん、クーベルタンについては和田浩一さん。第一人者の先生方にお話しいただきました。講義③の「オリンピックからみたエクセレンス」は、2006年トリノ五輪のスキーに出場された鶴岡剣太郎さん。初日のラストは富田幸祐さんが担当で、中京大学スポーツミュージアムにカメラを入れて、ミュージアム見学とオンラインでのグループ活動です。グループごとの発表もありました。

2日目は筑波大附属高校の桐陰会館と中京大学に分かれて対面での活動です。午前中はOVEP(The Olympic Value Education Programme)というIOCがつくった教育プログラムを用いながら、今回のテー



日本ピエール・ド・クーベルタンユースフォーラム2025

◆11月8日(土) オンライン 8:45 入室可能

9:00~10:00 オープニング/オリエンテーション

10:10~11:00 講義① 嘉納治五郎とオリンピックムーブメント(大林 太朗)

11:10~12:00 講義② クーベルタンのオリンピズム(和田 浩一)

13:00~14:00 講義③ オリンピアンからみた「エクセレンス」(鶴岡 剣太郎)

14:30~17:00 演習① 中京大学スポーツミュージアム活動(富田 幸祐)

◆11月9日(日) 対面 筑波大学附属高校および中京大学

9:00~9:15 諸連絡等

9:15~11:15 演習② Olympic Values Education Programme で「エクセレンス」を学ぶ
講義とグループディスカッション(宮崎 明世)

11:30~12:00 グループディスカッション発表

13:00~14:00 講義④ アフリカからみた「エクセレンス」

—A-Goalプロジェクトの取組(岸 卓巨)

14:20~16:20 実 技「ボッチャ」(山田 恵子、中塚 義実、木村 華織)

16:30~17:00 クロージング **エクセレンス—いまの自分を乗り越える**

◆11月14日(金) 課題レポート提出

マである「エクセレンス」を学ぶというものです。毎回、筑波大の宮崎明世さんが担当されています。対面でのグループ討議を経て発表するところまでが午前中の活動です。そして午後は、新企画ですが、「アフリカからみたエクセレンス」ということで、サロンファミリーでもある岸卓巨さんがずっと取り組む A-Goal プロジェクトを紹介してもらいました。ケニアとオンラインでつなぎ、彼らがどのような環境で過ごし、少しでも良くしていくために何をしているのかを紹介してもらいました。ボッチャの実技は中京大学と筑波大附属の2会場に分かれて行いますが、合同チーム対抗戦のかたちでした。「エクセレンス—いまの自分を乗り超える」はオリンピックバリューにあるものですが、このような形で進めております。

写真左上が初日のオンラインの様子、右上はボッチャをやっているところです。左下は中京大学会場の講義、右下は全体が揃っての集合写真です。

岸さんは青年海外協力隊でケニア派遣を経験されていますが、ただでさえ貧富の差が激しいケニアにおいて、コロナ禍で支援物資も届かない地域に、スポーツクラブ経由で届ける試みから始まったのが A-Goal プロジェクトです。スポーツでアフリカの人たちを豊かにしようということで、いまではケニアで青少年のサッカーリーグを展開したり、いろんなことに取り組んでいます。今回のユースフォーラムでは、ケニアからもオンラインで参加してもらい、現地の様子を共有することもできました。

国内 YF の参加者です。メインは高校生ですが、数年前から大学生にも参加してもらっています。首都圏からは筑波大附高、自由学園、国士館、郁文館。中京大学会場は、名古屋大附高と椙山女学園。椙山女学園はベルリン五輪の「前畑がんばれ」の前畑さんの出身校ですね。高校生 18 名、大学生、院生 4 名の計 22 名が参加し、大人もいろんな方が関わってやっております。

今年度の国内 YF の紹介でした。

■高校生	
筑波大学附属高等学校	2名(男1女1)
自由学園高等部	4名(男2女2)
国士館高等学校	3名(男3)
郁文館高等学校	1名(女1)
名古屋大学附属高等学校	5名(女5)
椙山女学園高校	3名(女3)
■大学生・院生	
国際武道大学	2名(男1女1)
清和大学	1名(女1)
筑波大学・大学院	1名(男1)
高校生18名+大学生・院生4名=計22名	

◆国際・国内ピエール・ド・クーベルタン・ユースフォーラムについて

ではここから国際 YF について紹介し、そのあとで国内 YF のはじまりからざっとみていきたいと思えます。

「国際ピエール・ド・クーベルタンユースフォーラム」と言われても、聞いたことがない人の方が多いと思います。私自身、関わるようになって初めて知りました。主催する組織は CIPC、国際ピエール・ド・クーベルタン委員会です。第1回大会は1997年、サマランチが IOC 会長をやっていた頃、財政的に豊かになった IOC が、クーベルタンの理念に立ち返っていいんじゃないかということで始まったと聞いています。

開催地はル・アーブル、マッチウェンロック、ローザンヌ…。ここに挙がっているのは「クーベルタンスクール」がある都市です。クーベルタンの名前を冠した学校が世界中にいっぱいあり、その中で日本の高校にあたる学校が、持ち回りで開催しています。

チェコのターボルで開かれた第6回大会に、日本人が初参加します。田原淳子さん。いま国士館大学の学長をされている方です。ヨーロッパで始まったムーブメントを世界中に広げたい、アジアに広げたいとなった時に、オリンピックムーブメントのアジアへの広がりが出発点が嘉納治五郎だったように、日本に話が来て田原さんが参加され、2年後の第7回大会に日本チームが初参加することになり

ました。ちょうど東京が2016年のオリンピック招致活動をやっていたこともあり、東京都に話が行き、都立国際高校から2名の生徒が参加しました。

その次の第8回大会は、ちょうど筑波大学にオリンピック教育の組織ができたこともあり、筑波大附属高校から2名、その次も2名。2015年からは日本代表として7名が参加できるようになりました。フルメンバーは各国7名ですが、オブザーバースクールとして2名だけの参加だったのが、2015年からフルメンバーで参加できるようになったということです。

そして、その選考を兼ねた国内ユースフォーラムが開かれるようになりました。

2年ごとの開催ですが、第12回と13回の間がずれています。おわかりだと思いますが、コロナです。私が関わったのは赤枠で囲ったところなので、本日前半の国際 YF の話はこのあたりが中心になります。

国際 YF を主催する CIPC は 1975 年創設です。2025 年で 50 周年を迎えました。1 年遅れですが、今年中に 50 周年の式典がオリンピアで開催される予定です。日本からは私が参加させていただきます。

「日本ピエール・ド・クーベルタンユースフォーラム」の名称で、CJPC 主催で開かれるようになったのが 2021 年。コロナの頃ですね。はじめはオンラインでしかできませんでしたが、コロナ明けからはオンラインと対面を併用して行っています。しかし実はこの前から、話は始まっています。今日の後半の話で出てきます。

日本ピエール・ド・クーベルタン委員会

(CJPC) は 2019 年 8 月 4 日設立です。中京大学で開かれた設立総会の写真があります(本法報告では略)。私はこの日、サッカー部の合宿か何かと重なって行けなかったと記憶しています。

ここまでまずアウトラインを述べました。

ではせっかくなので、本日の参加者の皆さんから自己紹介をいただけないでしょうか。

<自己紹介略>

国際ピエール・ド・クーベルタン・ユースフォーラム

- 第1回 1997年 ル・アーブル(フランス) CIPC(国際ピエール・ド・クーベルタン委員会)主催
- 第2回 1999年 マッチ・ウェンロック(イギリス)
- 第3回 2001年 ローザンヌ(スイス)
- 第4回 2003年 アレンツァーノ(イタリア)
- 第5回 2005年 ラートシュタット(オーストリア)
- 第6回 2007年 ターボル(チェコ共和国) ... 日本に紹介
- 第7回 2009年 オリンピア、パリニ(ギリシア) ... 日本初参加
- 第8回 2011年 北京(中国) ... 筑附高から2名
- 第9回 2013年 リレハンメル(ノルウェー) ... 筑附高から2名
- 第10回 2015年 ピエスチャニ(スロバキア) ... 日本から7名
- 第11回 2017年 ウルヌルメ(エストニア) ... 日本から7名
- 第12回 2019年 マコン(フランス) ... 日本から6名
- 第13回 2022年 ミュンヘン(ドイツ) ... 日本から5名

日本ピエール・ド・クーベルタン・ユースフォーラム

- 第10回 2015年 ピエスチャニ(スロバキア) ... 日本から7名 CJPC(日本ピエール・ド・クーベルタン委員会)主催
- 第11回 2017年 ウルヌルメ(エストニア) ... 日本から7名
- 第12回 2019年 マコン(フランス) ... 日本から6名
- ★日本ピエール・ド・クーベルタンユースフォーラム2021 ★国際YF選考会を兼ねる
- 2021年12月25日(土)、26日(日) オンライン 高校生26名(男4、女22)
- 第13回 2022年 ミュンヘン(ドイツ) ... 日本から5名
- 日本ピエール・ド・クーベルタンユースフォーラム2022
- 2022年12月26日(月)、27日(火) オンライン 高校生19名(男6女13) 関東13・東海6
- 日本ピエール・ド・クーベルタンユースフォーラム2023
- 2023年12月25日(月)、26日(火) オンラインと対面(筑波大附高)
- 高校生8名(関東7・東海1)+大学生5名=計13名(男4、女9)
- 日本ピエール・ド・クーベルタンユースフォーラム2024
- 2024年12月25日(水)、26日(木) オンラインと対面(筑波大附高&中京大)
- 高校生14名+大学生5名=計19名(男6、女13) 関東14・東海5
- 日本ピエール・ド・クーベルタンユースフォーラム2025
- 2025年11月8日(土)、9日(日) オンラインと対面(筑波大附高&中京大)
- 高校生18名+大学生・院生4名=計22名(男8女14) 関東14・東海8

I. 国際ピエールドクーベルタンユースフォーラム（国際 YF）とは

1. 私的「オリンピック教育」との関わり—CORE の創設

◆CORE の創設と国際 YF への生徒派遣（2010～11）

いまでこそ「オリンピック教育」の語り部のようになっていますが、私自身、関わるようになる前は「なんじゃそれ？」という感じでした。まずそこからいきたいと思います。

2010年ですから、15～16年前のです。筑波大学オリンピック教育プラットフォーム（CORE）という組織ができました。ちょうど嘉納治五郎生誕150年のタイミングで、筑波大学の中期計画にオリンピック教育が盛り込まれました。当時のジャック・ロゲ IOC 会長をお招きしたり、いろいろやってるなということは知っていましたが、他人ごとでした。

筑波大学には附属学校が11校あります。附属小・中・高、駒場、坂戸、それから視覚支援や聴覚支援などの特別支援学校です。これら附属11校を統括するのが附属学校教育長で、阿部生雄先生が務めておられました。附属中学の校長をされた後にこのポストに就かれて、この年が最終年度でした。スポーツ史の大家としておなじみですね。私にとっても阿部先生は修士論文の副査でしたし、お隣の附属中学校長でもあったのでおなじみの先生です。ちなみに主査は体育社会学の糸野豊先生で、もう一人の副査は成田十次郎先生でした。こういった方々のもとで大学院時代を過ごしました。

2010年の秋ごろに、その阿部先生から呼び出しがあり、筑波大学がオリンピック教育に本格的に取り組みを始めることをお聞きしました。そして「中塚君、附属学校の取りまとめ役をやってくれないか」と言われました。しかし最初にお聞きした時は、私自身あまり乗り気にはなれませんでした。日本では体育とスポーツが長らくごちゃになったままここまで来てしまった。ようやくJリーグ以降、スポーツが遊びであり自由なものなのだという考えが浸透してきたのに、またスポーツを教育の方に戻さなあかんのかと感じて、すごく嫌でした。「オリンピック教育には関わりたくありません」というようなことを阿部先生に申し上げたのを覚えています。

だいぶ後になって、オリンピック教育の事業を私が率先してやっているところにたまたま阿部先生が顔を出され、「やらないって言ってたじゃないか（笑）」と言われたのも覚えています。それが阿部先生との生前最後の会話だったかもしれません。亡くなられてしまいました。

ちょうど同じ頃、国際ピエール・ド・クーベルタンユースフォーラムへの生徒派遣の話が、田原さんから阿部先生のところへ来ました。それが第8回国際 YF への生徒

私的「オリンピック教育」との関わり①

◆2010年9～10月

1) 筑波大学オリンピック教育プラットフォーム(CORE)設立準備
「附属学校の取りまとめ役として関わってほしい」との依頼が、当時の附属学校教育長・阿部生雄氏からあった

2) 国際ピエール・ド・クーベルタン・ユースフォーラムへの派遣依頼
CIPC＝国際PdC委員会議事(当時)の田原淳子氏より阿部氏へ打診。
「2011年8月に北京で行われる第8回国際ピエール・ド・クーベルタン・ユースフォーラムに、筑波大学の附属学校から生徒を派遣してもらえないか」「附属高校からどうだろう...」



いきなり、「オリンピック教育」の当事者になってしまった

私的「オリンピック教育」との関わり②—国際教育

平成21(2009)年度 教育長裁量経費による国際教育拠点事業一覧

No.	学校名	事業名
1	附属小中学校	日本と韓国における習字教育に関する「授業研究」のあり方に関する共同研究
2	附属中学校	シンガポール・セアソン・2009年「国際教育」
3	附属高等学校	1) 中国北京で行われる北京オリンピックの視察 2) アジアの各大学から留学生を招き入れるための派遣 3) 日本A・Cに付随して附属校との共同研究
4	附属附属中・高	1) 筑波大学附属中学校との共同研究 2) 日本と韓国大学附属校との交流
5	附属附属高等学校	国際教育に関する共同研究の支援プロジェクト
6	附属附属特別支援学校	1) 国際教育に関する共同研究の支援プロジェクト 2) インドネシアにおける国際教育の発展支援
7	附属附属特別支援学校	特別支援教育における国際化推進のための「国際教育推進」に関する共同研究
8	附属附属特別支援学校	1) 筑波大学附属特別支援学校の国際化推進の共同研究 2) 筑波大学附属特別支援学校の国際化推進の共同研究
9	附属附属特別支援学校	附属附属特別支援学校の国際化推進に関する共同研究
10	附属附属特別支援学校	日本と韓国間の国際化推進に関する共同研究

◆2010年度(阿部生雄教育長の最終年度)

・第2回国際教育推進専門委員会(12月14日)にて、「オリンピック教育」が議題に。大学の動きが紹介。

・12月15日に附属学校保健科教員による「第1回オリンピック教育勉強会」開催(阿部教育長、坪田耕三次長も参加)

◆2011年度(東教育長の初年度)

・国際教育推進委員会の中にオリンピック教育推進専門委員会設置

派遣の話です。オリンピック教育の組織が筑波大学にできるのであれば、国際 YF にはぜひどうだろうという話になってきました。私はいきなり当事者になってしまったわけです。

◆筑波大学国際教育推進専門委員会とオリンピック教育推進専門委員会（2009～11）

ちょうどその前後、筑波大学附属学校で国際理解教育を進めていくような態勢が整えられつつありました。上から言われなくても各学校ではやっていたのですが、法人化した筑波大学の中期計画の中に国際理解教育が盛り込まれていたことも背景にあると思います。国際理解教育推進専門委員会ができ、なぜか私に委員として関わっていました。

先ほど出てきた阿部教育長の最終年度に、この委員会でオリンピック教育が議題に上がってきます。ここでも「オリンピック教育ってなに？」ということで、「では附属学校教員の勉強会をしよう」ということになり、まずは保健科教員の勉強会を附属高校で開くことにしました。阿部教育長や坪田次長にも来ていただきました。翌2011年度、教育長は東照雄氏に代わり、国際教育推進専門委員会の中にオリンピック教育推進専門委員会ができました。いまもあります。

「第1回オリンピック教育勉強会」という資料が手許に残っています。2010年12月15日に筑波大附属高校の会議室でやっています。各附属学校の体育の先生方が集まりました。教育実習の話が一つの柱でしたが、会の後半でオリンピック教育を取り上げ、阿部教育長から大学の動向などをお話しいただきました。附属学校を持つ筑波大学の取り組みが世界的に注目されていることを知りました。

「オリンピック教育」というと大

げさで何だかわからないけど、肩肘張らないで言うとするならこんな実践も含まれるのではということを紹介しあいました。例えば附属中学では、卒業生でもある広島市長の講演会をやっています。また附属高校では通年の体育理論の授業でオリンピックを題材とする授業に取り組んでいます。体育で

2010.12.22.

第1回 オリンピック教育勉強会 報告

【日 時】2010年12月15日（水）18：30～20：45
【会 場】筑波大学附属高校3F会議室（東京都文京区大塚1-9-1）
【テーマ】Ⅰ. 「教育実習の手引き（保健体育科）」の見直しについて（情報交換）
Ⅱ. オリンピック教育について（勉強会）
注）阿部教育長が大学の会議で遅れるので、「オリンピック教育」の議題を後に持ってきた。
【出席（敬称略）】
原田（視覚支援）、渡辺（聴覚支援）、大津（坂戸）、横尾（駒場）、関野・長岡（中）、貴志・征矢・中塚（高）、宮崎（大学）、桶谷（嘉納治五郎記念国際交流センター）、坪田（附属学校教育局長次長）、阿部（附属学校教育局長）

Ⅰ. 「教育実習の手引き（保健体育科）」の見直しについて
(ここでは省略)

Ⅱ. オリンピック教育について

1. これまでの動向と本勉強会開催に至る経緯（中塚・桶谷）

- 大学の中期計画に沿って、「オリンピック教育」を推進する学内組織立ち上げ準備が夏ごろから進められ、12月10日の嘉納治五郎除幕式にて、山田学長より「筑波大学オリンピック教育プラットフォーム（CORE）」の発足が発表された。
- 南アフリカのダーバンで開催された IOC 主催第7回スポーツ・教育・文化世界会議（12/5～7 桶谷氏が参加）において、各国の関係者が筑波大学の取り組みに注目していることが改めてわかった。研究組織だけでなく実践の場があるということが筑波大学の大きな特徴であり、世界に情報発信できる潜在力を持っている。同会議については以下を参照
<http://www.olympic.org/en/content/Media/?articleNewsGroup=1&articleId=108522>
- 実践の場としての附属学校の組織作りを進めているが、現場には「オリンピック教育とは何か」がまったく浸透しておらず、「オリンピック教育推進委員（仮称）」を各校より選出する段階にない。そこで当面、既存の「国際教育推進委員会」が本件に関わる連絡組織として機能し、11附属にもれなく連絡・情報が行き渡るような体制をとった（12/14 国際教育推進委員会で合意）。
- 一方で、附属学校教員がある程度共通の理解の下で「オリンピック教育」にあたることができるよう、勉強会を開催したい。まずは保健体育科のネットワークで呼びかけ、他の議題と抱き合わせではあるが、本日の開催につながった。今後は、教科を越えた教員が集まって「オリンピック教育」の学習と実践を紹介しあう場として定期的に開催していきたい。その案内は「国際教育推進委員会」を通して流される。

2. 「オリンピック教育」推進の背景と意義（阿部教育長）

「附属の新しい波～オリンピック教育について」（ローニア第19号）と「ニュースオリンピック・ゲームズとオリンピック教育」（JOAセッション資料2010.12.12.）を用いて、説明があった。

3. 附属各校での取り組みと課題

自己紹介がてら、各校での取り組みを紹介しあった。課題は多いが、できそうなこと、すでに行っていることも多々あることがわかった。

4. ディスカッションー「オリンピック教育」として何ができるか？ 何が課題か？
(一部、会議後の意見交換の内容も含まれます)

- 「オリンピック教育」の内容やかたちは決まっていない。これからつくりあげていくもの。いつの間にか各校でやっている、これらの実践を集約しながら、テキスト作りにつなげていきたい。
- オリンピック教育と「体育」や「スポーツ教育」の違いは何か。「楽しい体育」がひと頃言われ、競争よりも楽しむことが重視されていたが、そのような流れと「オリンピック教育」はどうつながっていくか。研究と教育の両面から検討していく必要がある。
- オリンピック・ヴァリューである Excellence, Friendship, Respect を教育のさまざまな場面で活かしていくのがオリンピック教育のねらい。かたちは定まっていないが、譲れない部分、なくてはならない部分はある。
- オリンピックをめぐる「負の部分」も取り上げていくべき。負の部分の学習を通して、本来のあり方、ポジティブな側面が理解できる。

以上（文責：中塚義実）

はいろいろできそうですが、他教科の実践はまだでした、けど学校行事や部活動まで広げていくといろいろできるのではないかと感じました。

ディスカッションのまとめでは、「オリンピック教育の内容やかたちは決まっていない。これから作りあげていくもの。いつの間にか各校でやっている、これらの実践を集約しながら、テキスト作りにつなげていきたい」と記しています。また「“オリンピック教育”と“体育”や“スポーツ教育”の違いは何か。“楽しい体育”がひと頃言われ、競争よりも楽しむことが重視されていたが、そのような流れと“オリンピック教育”はどうつながっていくのか」。そして、「オリンピックバリューである Excellence、Friendship、Respect を教育のさまざまな場面で活かしていくのがオリンピック教育のねらい。かたちは定まっていないが、譲れない部分、なくてはならない部分はある」。それに加えて「オリンピックをめぐる“負の部分”も取り上げていくべき。負の部分の学習を通して、本来のあり方、ポジティブな側面が理解できる」とまとめています。

こう考えると、目新しいことをやらんでもいいんじゃないのということもあるわけです。

◆オリンピック教育とは何か

オリンピック教育とは何かというと、このスライドにあるように、クーベルタンが目指したオリンピズムに行き着くわけです。スポーツをすることで、身体と意志と心の調和のとれた若者を育成すること。

そして、異なる国や地域の人々とスポーツをすることで、異文化理解、世界平和につながる。これらがオリンピズムであり、これをしっかり広げていくのがオリンピックムーブメントであると。4年に一度の競技会は、それを推進するための一つの通過点であるという考え方です。

オリンピックの価値を、IOC は Excellence、Friendship、Respect という三つの言葉で表現しています。オリンピズムの教育的価値もここにある通り。そしてパラリンピックの価値もこのように示されるようになりました。

ここで注意しておきたいのは、オリンピック教育が筑波大学の中で始まった時の議論です。附属 11 校ある中で、視覚支援学校の先生から「パラリンピックも入れてくれ」という発言がありました。しかし議論の末、入れない方がよいということになりました。オリンピックに加えて「パラリンピック」を入れてしまうと、4年に一度の競技会へ向けた教育ということになってしまわないか。それより大事なのはオリンピズム、ism であり、ものごとの考え方を尊重する方がよいのだということです。聴覚障がいの方々はパラリンピック競技会には関わりません。それよりも歴史あるデフリンピックがあるわけです。「オリンピック・パラリンピック教育とされてしまうと阻害される気がする」と、聴覚支援学校の先生が言っておられました。こういう経緯がありましたし、そもそもオリンピズムの中に「パラリンピックの価値」に示されたことがすべて含まれると、少なくとも私は考えます。

◆筑波大学附属高校の国際 YF 参加にあたって

筑波大学附属高校の国際 YF 参加までには、筑波大学の中期計画にオリンピック教育が入ってきたことを含め、いま私が言ったようなことを学校の職員会議で説明する必要がありました。しかしほとんどの人が、「オリンピック教育って何？」という状態でした。選手を育てるためのプログラムか、エリートのための教育なのか。物理オリンピックに関わる先生もいましたが、これも物理エリートのた

オリンピック教育

◆クーベルタンが目指したこと ⇒ オリンピズム

- ・スポーツをすることで、身体と意志と心の調和のとれた若者を育成する
- ・異なる国や地域の人々とスポーツを行うことで、互いに相手を尊重し、自分とは異なる相手の文化や考え方を理解する(異文化理解・世界平和)
- ・スポーツによってよりよい人間が増えれば、社会がよくなり、国がよくなり、世界がよくなっていく⇒平和でよりよい世界の構築

◆オリンピックの価値(Olympic Values)

卓越(Excellence)、友情(Friendship)、尊重(Respect)

◆オリンピズムの教育的価値

<ul style="list-style-type: none">①努力する喜び(Joy of effort)②フェアプレイ(Fair play)③他者への尊重(Respect for others)④卓越さの追求(Pursuit of excellence)⑤身体、意志、心の調和(Balance between body, will and mind)	<p><パラリンピックの価値></p> <p>Courage(勇気)</p> <p>Determination(強い意志・決断)</p> <p>Equality(公平・平等)</p> <p>Inspiration(鼓舞)</p>
---	--

めとされていますが、本当は多くの人に物理が好きになってもらいたいというのが趣旨だそうです。けど「オリンピック」がつくと、一部エリート対象のようにみられてしまう。それから、当時は2016年の東京オリンピック招致のころだったので、招致活動の一環なのかと。さらに、ユースフォーラムに参加すると、ただでさえ忙しいのに一体誰が引率するのか。なぜ附属高校がせなあかんのか。クーベルタンスクールが交替で主催するようだが、いつかは主催せなあかんのか、それは無理だということで、もうボロボロでした。

けど、「とにかく今回はあくまでもオブザーバーとして、オリンピック教育がどのように為されているのかを見てくるのがねらいです。私が引率するので行かせてください」ということで、第8回の北京大会に行ってくることになりました。

2011年の夏、お盆の頃です。

2. 国際 YF の実際

◆第8回大会（2011、北京）

会場是北京四中です。なぜ北京がアジアで唯一のクーベルタンスクールなのかと言うと、北京オリンピックへ向けてのオリンピック教育、まさに大会へ向けての「オリンピック教育」に北京市が取り組んでいたのでですね。いまこの学校では、あまりやっていないようです。

参加国はスライドにある通りです。いろんなところから来ています。コンゴ、キプロス、日本、ケニア、モーリシャス、マレーシアは、オブザーバースクールとして各校2名の参加です。本校からは女子生徒2名が参加しました。

写真で見たいと思います。

筑波大附高の国際YF参加まで

◆「オリンピック教育」に対する、教員の反応
「オリンピック教育って何？」
・オリンピック選手を育てるためのプログラム？
・エリートのための教育？
(「物理オリンピック」等も同様に受け止められている)
・オリンピック招致活動の一環？

◆ユースフォーラムへの参加をめぐる：会議にて
「ただでさえ忙しいのに、いったい誰が引率するの？」
「なぜ附属高校がやらなくてはならないの？」
「クーベルタン・スクールになったら主催する？ それは無理...」

↓

今回は、あくまでもオブザーバーとして、オリンピック教育がどのように為されているのかを見てくるのがねらい。引率は中塚

第8回国際ピエール・ド・クーベルタン・ユースフォーラムの実際

【期 日】2011年8月13日(土)～21日(日)
※8/13am9:25羽田発～8/21pm8:15羽田着

【会場・主催校】北京第四中学校
※アジアで唯一のクーベルタンスクール

【参加国】オーストラリア、オーストリア(2校)、中国、チェコ、エストニア、ドイツ(2校)、イギリス、ギリシャ、イタリア、メキシコ、ノルウェー、スロバキア、チュニジア(ここまではクーベルタンスクール。各校7名)
コンゴ、キプロス、日本、ケニア、モーリシャス、マレーシア
(斜体下線はオブザーバースクール。各校2名)

※参加生徒117名、引率教員22名、スタッフ約20名、ボランティア(北京四中)約70名

【本校からの参加】生徒2名(女子)
引率教諭：中塚義実(保健体育科)



朝のプログラム、日本だったらラジオ体操ですが、太極拳ですね。あらかじめ動画が送られてきて、それぞれ練習しておくことになっていました。テストもありました。

2日目にはオリンピズムに関するレクチャーがありました。アントワン・ド・ナバセルさんは、クーベルタンの妹のお孫さんで、クーベルタン家を継いでいる方です。来日して筑波大附属高校の私の体育理論の授業参観にも来られました。ノルベルト・ミュラー会長は、もう亡くなくなれましたが、スポーツ史の大家です。レクチャーは英語の教室とフランス語の教室がありました。



学校紹介の時間もあり、それぞれ民族衣装などを着ていました。うちの学校は私服なので普段はセーラー服ではありませんが、本校の2名は中学時代の制服を用意してきました。

東日本大震災が3月にあった年です。6月ごろだったと思いますが、突然ドイツの学校から手紙と折り鶴が送られてきました。「あなた方のいる東京は、地震と原発事故で大変な状況ではないでしょうか。頑張ってください、お会いできるのを楽しみにしています」というような内容でした。原発事故のことは、日本以上に海外の人が大きなニュースとして取り上げていたようです。学校紹介では、それらに関するお礼を述べ、嘉納治五郎が校長だったことも紹介しました。これは結構インパクトがありました。嘉納治五郎は世界的に知名度の高い人物なのだということが、行ってみて改めてわかった次第です。

スポーツテストをやっているところです。走り幅跳び、水泳、50メートル走、そして太極拳のテスト。標準記録が決まっており、クリアしないとイケません。グループでオリンピズムに関するディスカッションもします。知識テストは全部英語で、古代ギリシャの都市名や古代オリンピックの種目名を英語で答えるような、マニアックなテストです。これもある一定以上の点数が取れないと、クーベルタンアワードを獲得することができません。

毎日教師のミーティングがありますが、ここでもオリンピズムのキーワードがすごく出てきます。「北京四中の校長先生からクレームがあった。東アジアの文化をしっかりと“リスペクト”するべきだ」というように。日本の修学旅行もそうですが、我々は男子のフロアと女子のフロアを分けます。けど欧米の人たちはどんどん行き来するわけです。そのことを北京四中の校長が怒っている。寮内の喫煙は教師もダメだ。ペットボトルの放置や門限破りはけしからんということで、“リスペクト”という言葉がよく聞かれました。オーストラリアのこわい先生が、高校生を集めて説教しました。

お楽しみももちろんあって、ダンスパーティーは毎晩。みんなよく踊るんです。

クロスカントリーでは、筑波大附高の生徒が優勝しました。中にはアスリートっぽい子もいますが、トップアスリートが集まっているわけではありません。普通の子が集まり、ディスカッションしたりスポーツやアート活動をしたり。そういうのが国際ユースフォーラムでした。机1台で自国の文化を紹介する「ミニエキスポ」もおもしろかったですね。北京大会で初めて行われたようですが、これ以降定着します。持参していたお祭の法被が役に立ちました。

4日目(8/16)夕食後:国際ダンスパーティー



5日目(8/17)午前:クロスカントリー



6日目(8/18)夕食後:ミニ・エキスポ



8日目(8/20) クロージングセレモニー



クロージングセレモニーでは、参加賞は全員に渡されるのですが、クーベルタン賞は全員がもらえるわけではありません。3割ぐらいはもらえませんでした。Body, Will and Mind、心・技・体と言っていると思いますが、それが揃っている、調和のとれた“人格者”。こう言うと少し大げさかもしれませんが、そういう人を望ましい人間像としてクーベルタンユースフォーラムでは目指しているのだということが感じられました。

◆初参加で感じたこと

初めて参加して感じたことですが、クーベルタン賞を通して、オリンピック教育の内容がある程度わかりました。また、プログラム全体を通して、異文化理解と国際交流、様々な活動の中で印象付けられるオリピズムが感じられ、各国の状況がある程度わかりました。現状はヨーロッパ主導で展開されていますが、日本でできること、やっていることは多々ある。例えば日本の体育の授業は、技術や体力を高めるだけでなく、人との交流を通して、互いを尊重することや、スポーツマインドを育てているわけです。部活動にしても学校行事にしても同様です。だから改めて「オリンピック教育」と言う必要があるのかなということを感じました。現状でも様々な場面ですでに為されているのですから。

けど、為されてはいるけど、歴史や理念についての教育は不十分です。特に、近代スポーツ導入期における先駆者の思想をしっかりとやっていかなあかんなど。

もっとできることがある。実践し、発信していきたい。ヨーロッパ中心のオリンピック教育からローカルを加味したグローバルなオリンピック教育へ。こういうことを感じました。

◆JOAでの発表

そのようなことを感じていたころ、「オリンピックレクチャーで話をしてもらえないか」との話をいただきました。日本オリンピックアカデミー (JOA) からです。IOA という国際組織の日本支部として 1970 年代に創設され、オリピズムを広げていく運動を長らくされている組織です。そこの主催行事で時間をいただき、いま言ったようなことを話しました。2011年12月4日、会場は国立スポーツ科学センター (JISS) です。午前中にあったのですが、この日の午後は第34回 JOA セッションとして国際シンポジウムが開かれ、そこにも登壇しました。シンガポールなどアジア諸国から来られた方々が、各国のオリンピック教育を報告する場です。私は「筑波大学附属高校におけるオリンピック教育」という題で発表しました。「オリンピック教育なんてやりたくない」と言っていた私が、日本を代表して説明している。おかしなことですが、いつの間にかそうなっていました。

国際PdCユースフォーラムに参加して(2011)

◆「オリンピック教育」で求められているものが、ある程度理解できた

- 1)クーベルタン賞を通して
各項目がクーベルタンの思想を反映→「オリンピック教育」の内容
- 2)プログラム全体を通して
 - ・異文化理解と国際交流 → 国際平和への貢献につながる
 - ・様々な活動の中で印象付けられる「オリピズム」
 - 例)クロスカントリーでの支え合い・助け合いを賞賛
 - 例)マナーに関する指導の中で「異文化をリスペクトせよ」との言葉
 - 例)クーベルタン賞は全員に授与されるわけではない!

◆各国の状況が、ある程度わかった

- ・現状は、ヨーロッパ主導で「オリンピック教育」が展開されている
- ・日本でできること、やっていることが多々ある→日本からの情報発信 ※「オリンピック教育」と、改めて称する必要があるのか?

国際YF(2011)で感じた 日本のオリンピック教育

◆現状でも「オリンピック教育」は、様々な場面で為されている!
→ あえて「オリンピック教育」を唱える意味・意義を考えたい

◆為されてはいるが、「歴史」や「理念」についての教育は不十分!
→ 近代スポーツ導入期における先駆者の思想と功績、特に、嘉納治五郎の遺産についての学習が必要!

学校スポーツのルーツは、明治期の東京高等師範学校にある。その附属学校としての歴史教育が重要。とりわけ嘉納治五郎の思想と功績については欠かせない!

↓

もっとできることがある。実践し、発信していきたい

↓

ヨーロッパ中心の「オリンピック教育」から、
ローカルを加味したグローバル(⇒GLOCAL)な「オリンピック教育」へ

オリンピック・レクチャー

国際ピエール・ド・クーベルタン ユースフォーラム報告

北京で感じ、考えた、
「オリンピック教育」の現状と今後

2011年12月4日 於国立スポーツ科学センター

筑波大学附属高等学校 保健体育科教諭・サッカー一部顧問
筑波大学オリンピック教育プラットフォーム(CORE)運営委員
筑波大学蹴球部同窓会若友SC理事長
スポーツ文化ネットワーク「サロン2002」理事長
中塚 義実

28

国際シンポジウム2011(第34回JOAセッション)

筑波大学附属高校における オリンピック教育

2011年12月4日 於国立スポーツ科学センター

筑波大学附属高等学校
保健体育科教諭・サッカー一部顧問
スポーツ文化ネットワーク「サロン2002」理事長
筑波大学蹴球部同窓会若友SC理事長
中塚 義実

29

2年後の第36回JOAセッションでも、第9回国際YFの報告をさせてもらいました。ノルウェーのリレハンメルで開かれた大会です。2013年12月ということは、2020年の東京開催が決まったあとですね。東京開催が決まり、急に「オリンピック教育をせなあかん」というムードになってきたころ、私は現場の第一人者みたいな感じになっていました。この頃はまだJOA会員ではなかったと思います。このあと入会し、JOAクーベルタン研究部門の一員となりました。

◆第9回大会（2013、リレハンメル）－出発まで

本日ご参加の皆川さんが高校時代に参加した大会です。まだオブザーバースクールで、2名のみの派遣でした。筑波大附高から2名を選考・派遣するにあたり、まず全校集会で呼びかけます。「リレハンメルで、世界の高校生とオリンピックについて語りませんか」という題で資料を作り、全校生徒に配布しました。「希望者は中塚のところまで」と伝えたところ、5名の男女がエントリーしてきました。レポート、面接等を経て2名を選考しますが、定期的に行った「勉強会」は、選ばれなかった生徒も含めたチームで取り組みました。第35回JOAセッションにも、当時の1年生4名が参加しました。皆川さんは何かと重なって行けなかったようですね。

放課後、定期的に勉強会をやっていました。なかなか大変でしたけど、やりがいがありました。連休中には秩父宮記念スポーツ資料館の見学にも行きました。そしてオリンピック教育講演会も企画しました。真田久さん、田原淳子さんに講師としてお越しいただきます。贅沢ですね。真田さんの講演は嘉納治五郎に関する内容だったので、サッカー部員も練習前に参加させました。

第36回 JOAセッション
第9回 国際ピエール・ト・クーベルタン
ユースフォーラム参加報告
－日本で何ができるのか－

この頃はまだJOA
会員でなかったが、
何度かこういう機会
をいただいた

2013年12月8日(日)
於明治大学リハビリタワー10階1103教室

筑波大学附属高等学校保健体育科教諭
サッカー部顧問/DUOリーグチェアマン
スポーツ文化研究会「サロン2002」理事長
筑波大学蹴球部同窓会若友SC理事長
筑波大学オリンピック教育プラットフォーム(CORE)運営委員
中塚 義実

30

準備① 全校生徒に呼びかけ
◆全校生徒へ告知・募集開始(2012年10月4日)
リレハンメルで、世界の高校生と、オリンピックについて語りませんか?

準備② 選考と事前学習
◆5名の男女がエントリー。2名を選考
◆第35回JOAセッション(オリンピック教育国際セミナー)に参加
◆放課後の勉強会を定期的に開催(2013年1月～6月)
・週1回、放課後に集まって「スポーツ」「オリンピック」の勉強会
フォーラム参加の2名を含め、多いときで4～5名参加
※いまだきの生徒は「忙しい」!
◆学校外での勉強会(5月3日(金)午後)
・秩父宮記念スポーツ資料館(国立競技場内)見学

準備③ オリンピック教育講演会

6月21日(金) 真田久氏
オリンピックと日本のスポーツ
－東京高等師範学校(含附属
学校)と嘉納治五郎を中心に

7月5日(金) 田原淳子氏
近代オリンピックの誕生とオリ
ンピック教育の動向




準備④ 夏休みに入った時点で...

◆7月13日(土) AM保護者会(PMは国際シホシム参加)

1. しておかなければならないこと
 - 1) ボランティア活動(クーベルタン賞の課題として)
 - 2) ミニエキスポの準備(日本文化の紹介&剣道の型練習)
 - 3) 環境に関するポスター(A3判1～3枚)の作成(課題として)
2. しておいた方がよいこと
 - 1) 知識テスト&スポーツテストの準備
 - 2) 日本と本校の歴史と現状を理解し、伝えるための準備
 - 3) ノルウェーについて/参加国についての学習
 - 4) お土産の準備

◆8月9日(出発)までの過ごし方

- ・生徒 ... 受験勉強(皆川)、部活動(加納)ほか
- ・教員 ... 担任業務(面談等)、蹴球部指導(8/4～8/9合宿)ほか

夏休みに入りますが、8月開催の国際YFに向けて、せなあかんことは沢山あります。保護者会を開きます。そして出発までに、クーベルタン賞の課題の一つとして地域でのボランティア活動を各自で実施し、校長先生の承認を得る必要がありました。その他諸々ありますが、高3の皆川さんは受験勉強

強があるし、高2の加納くんは剣道部の活動にしっかり取り組む。引率の私も高校3年の担任だったので、生徒や保護者の面談などを、蹴球部の活動の合間にやっていました。8/4～8/9は蹴球部の合宿がありましたが、1日早く合宿を離れ、8/9AM発の飛行機に乗りました。

◆第9回大会（2013、リレハンメル）－現地にて

場所は1994年冬季オリンピックの会場のリレハンメルです。8月10日～18日の1週間あまり。

クーベルタン賞に関する活動が国際YFのメインです。毎回、知識テスト、スポーツテスト、事前に行う社会貢献活動、そしてアートパフォーマンスとグループディスカッションで構成されています。あとはノルウェーでしか味わえないことや、互いの交流としてのミニエキスポ。そして、リレハンメル市民に対するパフォーマンスの場も設けられていました。

第9回 ノルウェー大会の概要	主なプログラム
<p>【期 日】2013年8月10日(土)～18日(日) ※8/9am11:40成田発～8/20am9:30成田着(約15時間のフライト) 注)飛行機の遅れにより、予定より帰国が1日遅れた</p> <p>【会 場】主会場:リレハンメル(1994冬季五輪会場) 主催校:Gausdal videregående skole - Pierre de Coubertin</p> <p>【参加国】オーストラリア、オーストリア(2校)、中国、チェコ、エストニア、ドイツ(2校)、イギリス、ギリシャ、イタリア、ノルウェー、ロシア、スロバキア(ここまではクーベルタンスクール。各校7名) キプロス、日本(筑波大附高)、ケニア、モーリシャス、マレーシア (斜体下線はオブザーバースクール。各校2名)</p> <p>※17か国19校。参加生徒100名、スタッフ20名、ボランティア30名余 【本校からの参加】生徒:皆川宥子(3-2)、加納時定(2-5) <small>引率教師:中塚美奈(保健体育科)</small></p>	<p>◆クーベルタン賞に関する活動◆</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)知識テスト ...オリンピック、オリンピズムについての講義とテスト 2)スポーツテスト... 必修:オリエンテーリングとクロスカントリー 選択:100m走・走幅跳・砲丸投・水泳から3種目 3)社会貢献活動... 事前に行う、地域のボランティア活動 4)アートパフォーマンス ... 7分以内のパフォーマンス 5)グループ・ディスカッション ... オリンピズムについての討論 <p>◆ノルウェーの自然や文化に親しむ活動◆</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)ノルウェーの自然や文化...国立公園でカヌー、野外バーベキュー等 2)ウィンタースポーツの体験 ... カーリング、ボブスレー等 <p>◆文化交流活動◆</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)ミニエキスポ ... 各国のブースを設けて交流 2)リレハンメル市民に対するパフォーマンス ... ダンスなど

移動日のオスロ駅前です。日本からヨーロッパへ行く日はメチャクチャ長い一日になりますが、さらに北極圏の方なので、なかなか日が沈みません。

リレハンメルの会場跡地にはサッカー場があったり、スポーツコンプレックスになっています。その中のロッジに全員宿泊します。世界中から集まった高校生が、現地校のリーダーの指導のもと、ゲームをやって仲良くなろうとしているところです。全部で約100名が集まったところです。



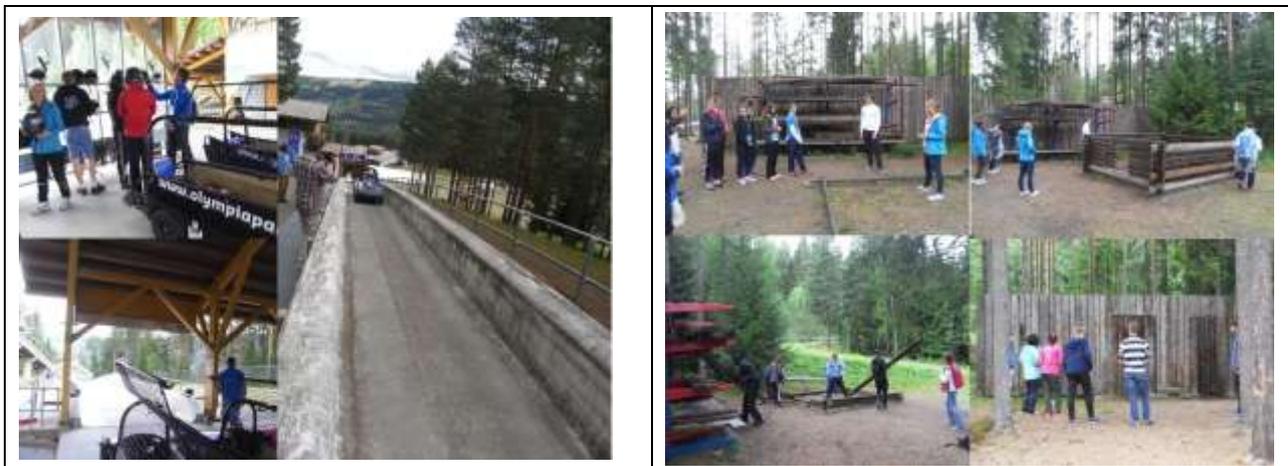


冬季オリンピックの種目を体験できたのは良かったですね。私もカーリングを体験しました。ボブスレーにも乗りました。多国籍のごちゃ混ぜグループで、木材を動かして入口と窓のある家を作ろうというアクティビティです。こういうのをやりながら仲良くなっていきます。



ミニエキスポは一所懸命準備しましたが、途中から大雨になって短時間で終わってしまいました。大変でしたが、いい交流の機会にはなりました。

各国の文化紹介の時間です。アップテンポの音楽を流してジャカジャカ踊る国が多いのですが、日本の2人は剣道部で、剣道の型を、シーンと静まり返ったところでやってくれました。東洋の神秘という感じで、本当に良かったです。模擬刀を飛行機に乗せるのは大変でしたが。





スポーツテストの様子です。水泳は市営プールですが、学校もここを使っているとのことでした。リレハンメル隣の隣のガウスダールというところにクーベルタンスクールがあり、そこがいろんな活動の会場になっていました。タータンの、すばらしい陸上競技場で50m走や砲丸投げ、走幅跳びの測定です。ストップウォッチではなく、光電管で測定していました。



ガウスダールのクーベルタンスクールは、とてもきれいな学校でした。ハンドボールのアリーナがあり、地域のクラブと共用しています。強いチームがあるみたいです。グループ討議も校内のいろんな場所で行います。自由時間は、もう一つ別の体育館で遊べます。右下写真のエストニアの子は砲丸投げの選手らしいけど、遊んでいる時に足をくじいてしまって、とてもかわいそうでした。



夕食は、校内のレストランです。地元のおばあさんたちが料理をふるまってくれます。とてもおいしかった記憶があります。

7名のフルメンバーで来るところは、その人たちで固まって食事をする傾向にありましたが、2名ずつのオブザーバースクールは、その人たち同士で集まることが多かったようです。





クロスカントリーもオリエンテーリングもありました。ゼッケンつけて、他国の人とグループで。教員もコテージの3人部屋でともに過ごします。せっかくなので、同部屋のオレフさん、エストニアの先生と一緒にオリエンテーリングのコースを回りました。アートパフォーマンスは毎回とても重視しています。ホールで発表会がありました。



国立公園への観光もありました。とても綺麗なところでした。ムースというシカの仲間が沢山いるという説明を聞いた後、ムースの肉の蒸し焼きを食べる。おいしかったですね。

最後はリレハンメルの市庁舎前での市民向けイベントです。ここでも日本チームは剣道の型を披露してくれました。

生徒たちは民族衣装などで出かけます。私も和装にしてみました。日本ではほとんど着ません。こういう時だけです。真ん中がケニアのロジャーさん、左がギリシャのコスタスさん。同世代のこういう方々と仲良くなりました。

ほぼ毎晩開かれた夜のティーチャーズミーティングは忘れられません。オレフさん、コスタスさん、ロジャーさん。机の下には内緒のドリンクがあるんですけど…。

最終日に、ノルウェーのスポーツについての講義を教師たちが受けているところです。先ほど出てきたアントワン・ド・ナバセルさんとのツーショットですね。

パラスポーツの体験、冬のパラスポーツ体験、ボッチャ体験などもありました。そして何と、リレハンメルの体育館には空手の道場もあり、日本で体験したことがない空手をノルウェーで体験するということができました。

クロージングセレモニーでは皆川さんがピアノを弾いています。日本の2人はクーベルタン賞をもらいました。





◆第9回大会に参加してー日本で何ができるか

日本で何ができるかを考えました。

クーベルタンスクールになることは、日本では馴染まない。しかしクーベルタンの思想、嘉納治五郎の思想と言ってもいいのですが、これについては広めていきたい。国内の高校生を対象に、スポーツの本質やオリンピズムを伝える場として国内向けのユースフォーラムをやりたい！
 こういうことを強く考えました。「オーストラリア型」と書いていますが、このころオーストラリアでは、州ごとにユースフォーラムをやっていて、各州の代表が国際YFに来ていたそうです。いまはなくなったようですが、こういうものを日本でもやりたいと思いました。また、日本人の可能性と課題についても考えました。シャイなのは語学力のせいなのかと言うと、それだけじゃないですよ。語学力は理由の一つでしかありません。伝えたいことがあれば、もっとオープンに伝えようとするはず。ただ、残念ながら高校生にはそもそもそういう機会

国際PdCユースフォーラムに参加して(2013)

◆日本で何ができるかを考えた...

- 1)「クーベルタン・スクール」となることについては...
 - ・歴史と伝統のある学校には、難しいんじゃない
 - ・そもそも人物名を学校名とするのは日本の習慣になじまない？
- 2)クーベルタンの思想＝嘉納治五郎の思想は、広めていきたい
 - ⇒国内向けの「オリンピック・ユースフォーラム」をやりたい！
 - ・国内の高校生を対象に“スポーツ”“オリンピズム”を伝える場を
＝オーストラリア型の導入

◆日本(人)の可能性と課題を考えた

- ・「シャイ」なのは語学力だけではない
- ・日本からの情報発信が必要！

↓
2015年春に「国内オリンピック教育ユースフォーラム(仮称)」を開催

がありません。例えばサッカー部で練習試合をやったとしても、それでおしまいです。両校が交流する場はありません。定期戦なら試合後の交流会があるんですけど。高校生の頃から、互いに交流し合う機会が必要だということを思い、「国内オリンピック教育ユースフォーラム（仮称）」を企画し始めました。「オリンピック教育」に急に追い風が吹いてきたタイミングです。

ということで、一旦ここで私の話をストップし、皆川さんあたりから補足していただき、ここまでのご質問や感想などをいただければと思います。

では皆川さん。懐かしい写真も出てきたと思うけど、参加した感想などをいただけますか



◆質疑応答①

皆川：すごく懐かしい写真を見ることができました。

オリンピックというとやっぱりスポーツのイメージが強く。先ほどのエストニアの砲丸の子は、確かエストニアの砲丸チャンピオンだったと思います。皆さんガタイがいいというのが率直な感想です。私自身も中学は陸上部で走るのが好きでしたが、隣を走る自分より下の学年の子の方がはるかにストライドが大きくて、まず体格差にびっくりしました。

あとスポーツの面で言いますと、スポーツテストをしている時に、日本の水泳のレベルは高いのだなと感じました。筑波大附属は中学の臨海実習で遠泳があるなど、日頃から水泳をするのが当たり前の環境です。日本全体でみても多くの公立学校にプールがあることから、日本の体育の環境が整っていることを同時に感じました。ほかにもありますが、随時ご質問に合わせて補足します。

中塚：ありがとうございます。走り幅跳びも日本人は上手と言われますよね。他の方どうでしょう。

野村：お話がすごく面白いなと思いました。オリンピックのことを勉強しながら、国際的な交流を体験する場があるんだなと思って、すごく勉強になりました。

中塚：おそらく知らないですよ、こういうこと。

野村：知らなかったです。

中塚：私も、行ってみてびっくりしました。こんなことをやってたのかと。

II. 国際 YF と国内 YF – さまざまな担い手

1. クーベルタン-嘉納ユースフォーラムの開催

◆「オリンピック教育国内 YF」の提案

ここまでは、筑波大附高からオブザーバーとして2名だけ参加していた時代でしたが、これまでの参加者がとても良かったので、「日本からぜひフルメンバーで」ということになり、2015年の第10回スロバキア大会からフルメンバーの7名を派遣できるようになりました。2020年大会が東京開催になったことも影響していると思います。

ここから少しややこしくなってきます。いろんな組織が登場してくるんです。

140311 JOAクーベルタン研究部会

オリンピック教育国内ユースフォーラムの提案(たたき台)

筑波大学附属高校 中塚義実

1. 提案の背景

- 1) 国際ピエール・ド・クーベルタン・ユースフォーラムへのオブザーバー参加の経験
- ・高校生にとって素晴らしい経験！これを国内に広めたい(クーベルタン校になることよりもネットワークづくり)
 - ・オブザーバーでなく、7名のフルメンバーで参加したい(クーベルタン委員会からの要望でもある)
 - ・国際交流の前に、国内交流が必要(特に、いまどきの高校生には...)

2) 2020年東京オリンピックとの関連で

- ・「オリンピックは単なる競技会ではなくオリンピズムが重要」とのメッセージを発信することが必要
- ・2020年東京大会後に日本で国際PdCユースフォーラムを開催し、世界の仲間をお招きしたい！

2. ミッションとビジョン

1) 何を使命として実施するんか？

- ・青少年の育成 → 心と体と知性のバランス、生きる力、オープンマインド
- ・世界平和への貢献 → 異文化理解、グローバル人材、

2) ビジョン(いつ? 何を?)

2014	国内ユースフォーラム・プレ開催	...	1泊2日程度のセミナー(嘉納治五郎関係の学校で?)
2015	第10回国際PdCユースフォーラム(スロバキア)	...	筑波大附+αの7名で!(2014参加者中心)
2016	第1回 国内ユースフォーラム	...	3泊4日の中央大会のみ
2017	第11回第10回国際PdCユースフォーラム / 第2回 国内YFブロック大会(9地域で開催)		
2018	第2回 国内ユースフォーラム	...	各ブロック代表者
2019	第12回国際PdCユースフォーラム / 第3回 国内YFブロック大会(9地域で開催)		
2020	東京オリンピック 第3回 国内ユースフォーラム	...	各ブロック代表者
2021	第13回国際PdCユースフォーラム(日本で開催!) / 第4回 国内YFブロック大会(9地域)		
2022	第4回 国内ユースフォーラム	...	各ブロック代表者

2013年のリレハンメル大会が終わり、年末にJOAセッションでの報告を終えた、年度末の3月の話です。私はおそらくJOAに入会し、クーベルタン研究部門の一員になったころだと思います。そこで「オリンピック教育国内ユースフォーラムの提案」をさせていただきました。国際ユースフォーラムは高校生にとって素晴らしい経験だ。これを日本国内に広めたい。「フルメンバーで参加したい」と言っているの、正式にはまだ決まっていなかったころですね。

何を使命とするのかについては、「青少年の育成—心と体と知性のバランス、生きる力、オープンマインド」、そして「世界平和への貢献—異文化理解、グローバル人材」。

いつ何をするのかについては、2014年にプレ開催し、2015年には筑波大附属+αでスロバキア大会へ。大会後に国内YFを正式に立ち上げ、全国9地域ごとにブロック大会を行う…。そういうことを勝手に構想していました。そして2020年の東京五輪の翌2021年、第13回国際YFを日本で開催しよう

じゃないかと。そんな大風呂敷を広げた提案でした。最終的には全国9地域ごとに2泊3日で行い、各地域の代表が全国大会に参加するようなイメージを持っていたようです。

◆クーベルタン-嘉納ユースフォーラム2015の開催

紆余曲折がありましたが、それが1年早く、「クーベルタン-嘉納ユースフォーラム」という名称で実現します。2015年3月13日～15日の2泊3日、先ほども出てきた筑波大学オリンピック教育プラットフォーム(CORE)が主催、法人化したNPOサロン2002が共催、JOAが後援という形です。筑波大学が会場で、研修センターという安く泊まれる研修施設、いまはもうありませんが、そこで宿泊して実施しました。

筑波大附属、附属駒場、附属坂戸、帝京、本日ご参加の嶋崎先生が引率されています。そして自由学園と中京大中京高校。経費は1人あたり1万円で2泊3日。安いですね。どんなことをするのかは、ほぼここにある通りです。

春休み前なので、初日は12時に集合してガイダンス。その後「野性の森」という野外活動施設で仲間づくりのアウトドア活動。飯ごう炊爨までが初日のプログラムです。2日目はラジオ体操に始まり、研修センターでの朝食後、大学へ移動。いくつか講義があって、午後はスポーツテスト。研修センターに戻って夕食後はディスカッション。「90分間は日本語禁止。全部英語」でやってもらいました。最終日も大学へ移動して、筆記テスト、総括、閉会式です。30名の高校生が集まり、筑波大附高から3名、自由学園2名、帝京と中京大中京から各1名の計7名を選考しました。

筑波大附高だけだったら、事前研修は放課後にできますが、複数校あるので日程調整が必要です。いずれも日曜日に計3回実施しました。4月26日は筑波大附高が会場です。名古屋からは生徒だけで

クーベルタン-嘉納 ユースフォーラム2015	
Jigoro Kano Memorial Japan Pierre de Coubertin Youth Forum 2015	
【主催】	筑波大学オリンピック教育プラットフォーム(CORE)
【共催】	特定非営利活動法人サロン2002(NPO法人サロン2002)
【後援】	特定非営利活動法人日本オリンピックアカデミー(NPO法人JOA)
【協力】	日本ビエール・ド・クーベルタン委員会
【期日】	2015年3月13日(金)～15日(日)
【会場】	筑波大学および筑波研修センター
【参加者】	高校生 男子18名、女子14名、計32名 および引率教諭(各校1名程度)
	・筑波大附属高校 … 男4名、女6名、計10名(ただし女2名は3/14PMのみ不参加)
	・筑波大学附属駒場高校 … 男4名、計4名
	・筑波大学附属坂戸高校 … 男3名、計3名
	・帝京高校 … 男2名、女2名、計4名
	・自由学園 … 男3名、女3名、計6名
	・中京大学附属中京高校 … 男2名、女3名、計5名
【経費(高校生一人当たりの概算)】	
	・研修センター宿泊費 7,400円 = 1泊3,700円 × 2泊
	・同 食 費 1,800円 = 朝食500円 × 2回 + 夕食800円
	・保険代その他 800円
	計 10,000円

クーベルタン-嘉納 ユースフォーラム2015	
【プログラムとスケジュール概要】	
◆3月13日(金)	
12:00～12:30	受付
12:30～13:30	ガイダンスおよび参加校紹介 → 「野性の森」へ移動
14:00～20:00	野外活動・飯盒炊爨 → 研修センターへ移動(徒歩) 23:00 消灯
◆3月14日(土)	
6:30	起床・体操
7:15	朝食 → 8:00ごろ出発して筑波大学へ移動(徒歩約20分)
8:30～9:00	講義①国際ビエール・ド・クーベルタン・ユースフォーラムとは
9:00～10:00	講義② 嘉納治五郎
10:00～11:30	学内研修
11:30～12:30	講義③ クーベルタン
12:30～13:30	昼食・休憩
14:00～17:00	スポーツテスト(於陸上競技場)、クロスカントリー → 研修センターへ
18:30	夕食
19:30～21:30	オリンピズムについての討議 23:00 消灯
◆3月15日(日)	
6:30	起床・体操
7:15	朝食 → 8:30ごろ出発して筑波大学へ移動(徒歩約20分)
9:00～10:00	筆記テスト
10:30～12:00	総括・閉会式(終了後、解散)

なく教員が引率で来てくれました。6月7日と28日はいずれも自由学園です。素晴らしいキャンパスです。こういう活動を通して7名がチームになっていきます。

◆第10回大会（2015、ピエスタニ）

第10回大会はスロバキアのピエスタニが会場です。アルゼンチンやブラジルといった南米諸国も参加校に加わっています。2016年のリオデジャネイロ五輪が影響しているのでしょう。

日本からまずウィーンへ。そこで時差調整や、準備できていなかった出し物の練習をしたりして過ごしました。ソーラン節をすることになっていたのですが「どこで練習するんですか？」と聞かれます。「どこでもできる！」と言ったところ、彼らはホテルでも、世界遺産のシェーンブルン宮殿でもやっていました。

ピエスタニのシンボル像の前で撮った写真です。古くから温泉で有名なところだそうです。町に来た時は杖をつけていたけど、帰る時にはいらなくなったことを表す、町のシンボルです。

スロバキア大会でもオリンピズムについてのディスカッション、スポーツテスト、水泳、あるいはクロスカントリー、筆記テスト。こういうのが定番で行われました。さらに障がい者スポーツの体験。クーベルタン賞とは関係ありませんが、必ずあります。アートパフォーマンスは、10ぐらいの講座から選択する形になりました。例えばスロバキアの民族音楽やダンス、演劇や絵画など。やりたいところを事前に選択し、国境を越えたグループでアート活動に取り組み、最後に発表するというものです。このグループでディスカッションの時間も過ごしました。

第10回大会への日本からの派遣は7名

—「クーベルタン・嘉納ユースフォーラム2015」で選考—

◆初の国内ユースフォーラム開催！（2015年3月）

第10回国際YFへの選考を兼ねて、3月に筑波大で「クーベルタン・嘉納ユースフォーラム2015」が開催され、全国から30名の高校生が参加しました。野外活動やスポーツ活動、知識テストや英語での討論などを通して、国際YF派遣の7名が決まりました

◆国際YFへは7名を派遣。

筑波大附から3名
自由学園（男女）2名
帝京、中京大中京から各1名

引率は中塚義実（筑波大附）



第10回 スロバキア大会の概要

【会場】開催都市：ピエスタニ（スロバキア）

主催校：Gymnázium Pierre de Coubertin Piest'any

【参加国（ABC順）】アルゼンチン、オーストラリア、オーストリア、ブラジル、チェコ、エストニア、フランス、ドイツ、イギリス、ギリシャ、イタリア、日本、ケニア、マレーシア、ノルウェー、ロシア、南アフリカ、スロバキア、ジンバブエ

※19か国21校。参加生徒110名、ボランティア約30名

【宿舎】2～3人の相部屋。シャワーは4～5人で共用。食事は充実

【日本との往復】

（ポテトが印象的）

8/27（木） 11：20成田～15：20ウィーン（約11時間） ※時差7時間

8/29（土）午後 バスでウィーン～ブラチスラバ～ピエスタニ（約2時間）

8月29日（土）～9月5日（土） 第10回国際YF

9/5（土） 早朝 バスでピエスタニ～ブラチスラバ～ウィーン

9/5（土） 13：20ウィーン～9/6（日） am7：00成田着（約11時間）



北京大会から始まったミニエキスポでは、夏祭りをイメージしたブースにしました。かなり評判はよかったですね。そしてクロージングセレモニー。とても充実した1週間でした。

◆第10回大会に参加して—今後の展望

これまで2名のオブザーバー参加でしたが、個性豊かな7名のメンバーが“チーム”になっていくプロセスが面白かったですね。また100名ぐらいの参加者の中で7名もいると、それなりの存在感を示すこともできます。

この活動をいかに続け、広げていくかということを考えてみました。クーベルタン・嘉納ユースフォーラムを毎年、全国各地で開くことはできないか。その場合の担い手は、ということが課題です。

日本で国際YFを開催するにはどうするかということも、並行して考えました。「たたき台」段階ではお金のことはあまり考えず、「2020東京オリパラの翌年は日本でやろう」ということを勝手に言っていました。実現するにはお金も必要です。具体的に考え始めたということです。



国際PdCユースフォーラムに参加して(2015)

- ◆フルメンバーはおもしろい！
 - ・個性豊かな派遣メンバーが“チーム”になっていく様子がおもしろい
 - ・それなりの存在感を示すことができる
- ◆いかに続け、広げていくかを考えた
 - 1)クーベルタン・嘉納ユースフォーラムを、毎年、全国各地で！
 - 2)担い手は？
- ◆日本で国際YFを開催するためにはどうするかを考えた
 - 1)いつ？
 - 2)どこで？
 - 3)誰が？

おまけになりますが、去年3月末で筑波大附高を退職した私が4月になって初めてスーツを着てお出かけたのが、4月11日の国土館大学です。スロバキアから2名の女性がゲストで来られた場に同席させてもらったのですが、うち一人が10年前のピエスタニの開催校の先生です。覚えてくれていま

した。写真中央が、学長になられた田原さんですね。右端の方は前スロバキア大使で、この方の奥さんが筑波大附属高校の卒業生だということです。国士館高校では柔道や剣道、書道の体験などもされていました。その様子がCIPCのオフィシャルサイトに載っています。<https://www.coubertin.org/news/page/2/>



2. さまざまな担い手

◆スポーツ庁と、JOA、CJPC、高体連…

「担い手」については、先ほどから出ているJOAもあります。オリンピズムを日本に広げる目的で設立された組織で、「JOA ユースセッション」という事業を過去2回開催していたようです。主に小・中学生対象のワンデーイベントです。長らく開催されていなかったこの事業が「第3回 JOA ユースセッション」として、中京大学の来田享子さんを中心に2016年3月に中京大で開かれました。中京大の学生もスタッフとして多数参加し、主に中・高校生を対象にコロナ前まで続けました。

2020東京オリパラ開催の追い風に乗って、オリンピック教育は政策としても取り上げられます。文科省からスポーツ庁が独立する2015年度、「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント調査研究事業」が始まります。ここで「パラリンピック」が入ってきます。政治的な思惑が背景にあります。これを筑波大学が受託して3府県に再委託し、宮城、京都、福岡での取り組みが始まります。各校の実践を共有するワークショップと、市民へ公開するフォーラムの二本立てです。この事業が翌年から「全国展開事業」となり、筑波大に加えて早稲田大と日体大も加わり、筑波大は茨城県を加えた4府県に再委託します。予算化されたので「オリパラ教育」を多くの自治体が行うようになりました。

こうなって改めて感じたのは、最初に抱いた疑問「オリンピック教育って何？」ということです。各校では、何をしたいかわからないから、オリンピックやパラリンピアンを呼んで講演会を開いて予算を消化することを「オリンピック教育」としていたことが多かったようです。2020年度で終了予定だったこの事業は、オリンピック自体が翌年に延びたこともあり、2021年も継続します。しかしその翌年度で事業としては終了しました。各地域ではその後どうなったのでしょうか。

私は京都担当として何度か現地に出向きました。2015年10月2日の推進校セミナーで「オリンピズムの教育的価値を普及させるために—まずは既存の“学校体育”の充実から—」という題で、京都の学校の先生方に話をしました。国際 YF を紹介し、クーベルタン賞にオリンピズムの中身が含まれていることを伝え、「オリンピック教育は日本では既にやっている。体育の授業や学校行事、部活動など、既存の活動をオリンピズムの観点から見直し、しっかりやっつけよう」という話です。

京都では独自の取り組みもありました。2016年2月11日の「教育レガシー共創フォーラム」は金剛能楽堂で開かれました。小中高で冬休みの宿題として募集した「スポーツ短歌」の優秀作品のお披露目です。京都でいまやっているのかはわかりませんが、続いているといいですね。翌12日には、各校の実践を共有するワークショップがありました。2月13日は入試の日ですが、前日まで京都にいたんですね。

2020年以降にどうつなげていくかということですが、ここでようやく CJPC（日本ピエール・ド・クーベルタン委員会）が出てきます。国際ユースフォーラムの主催は CIPC。その日本組織としての CJPC が設立される前は、JOA のクーベルタン研究部門が CJPC の役目を担っていました。このあたりがややこしいところです。すると JOA 傘下なので自由がきかない。中途半端な位置づけの中で、国内 YF2016 は「第4回 ユースセッション」を冠に付けることにもなりました。

担い手としての CJPC は前述のとおり 2019年8月に設立されましたが、コロナ禍でなかなか前へ進むことができません。ここに高体連が出てきます。高体連は各競技の専門部がいろんな大会をやっていますが、研究部という組織もあり、高校生の健全育成を目指しています。私は全国高体連の研究部活性化委員長として 2008 年度から 10 年以上関わり、嶋崎さんも一緒にやっていました。高校部活動のあり方を再考する中で、オリンピズムの教育が重要だ、国内 YF の担い手に高体連がなればよいという話を進めていました。JOA クーベルタン研究部門の人たちとも情報を共有し、高体連との連携についてミーティングを持ったこともあります。

ここに至った背景には、高体連研究部としてオリンピック教育に乗り出していこうとする意思が、2016年1月の全国高体連研究大会の全体会で、当時の研究部長からオフィシャルに語られたことがあります。これは大きいことなんです。お墨付きを得たうえで我々は動きはじめたのです。

その結果、東京都高体連研究部主催でのクーベルタン-嘉納ユースフォーラムが、国際 YF への選考がない年に何度か開催されました。前向きな研究部長のときは良かったのですが、徐々に停滞し、そのうちコロナになって白紙に戻ってしまいました。

◆クーベルタン-嘉納ユースフォーラム 2016 と第 11 回国際 YF

その過渡期にあったクーベルタン-嘉納 YF2016 の様子です。2016年12月末で、「第4回ユースセッション in つくば」が冠についている会です。

オリンピック・パラリンピック・ムーブメント推進校セミナー
2015年10月2日(金) 京都テルサ

立命館大学 筑波大学
University of Tokushima

**オリンピズムの教育的価値を普及させるために
—まずは既存の“学校体育”の充実から—**

1. CORE設立と国際YFへの派遣—現場の反応（2010年度）
2. 国際ピエール・ド・クーベルタン・ユースフォーラムで感じたこと
3. 世界に誇れる日本の学校体育
(体育の授業、体育的行事、運動部活動etc.)
—まずはこれらの活動を、「オリンピズム」の観点から見直そう！

◆実践事例—筑波大学附属高校蹴球部の取り組み

教育レガシー共創フォーラム 2016年2月11日(木祝) 金剛能楽堂

オリンピック・パラリンピック教育ワークショップ
2016年2月12日(金) 京都府総合教育センター

筑波大学附属高等学校
保健体育科教諭 中塚義実

**「オリパラ教育」推進のために②
—2020以降にどうつなげていくか—**

<p>JOA(日本オリンピックアカデミー)とCIPC</p> <p>国際YFの主催はCIPC(国際ピエール・ド・クーベルタン委員会)。日本組織はCIPCだが、長らくJOAクーベルタン研究部門が担う</p> <p>↓</p> <p>JOA傘下なので自由がきかない</p> <p>↓</p> <p>2016年12年末の国内YFは「第4回JOAユースセッション」を冠に</p> <p>↓</p> <p>2019年8月4日にCIPC設立総会 コロナ禍でなかなか前へ進まず</p>	<p>高体連は？</p> <p>「高体連活動は、専門部と研究部が車の両輪」</p> <p>↓</p> <p>研究部活性化委員会(2010~) (2008から活性化プロジェクト)</p> <p>↓</p> <p>「高校部活動のあり方」を再考する中で「オリンピズムの教育」が重要(ユース五輪の例あり)</p> <p>↓</p> <p>新規事業としての「国内YF」 まずは都高体連研究部主催で</p>
---	---

筑波大に高校生が続々集まり、オープニングで学校紹介。そして先ほども出てきた「野性の森」で、チームづくりの野外活動です。チームのメンバー全員が「そり立つ壁」を乗り越える遊びを通して、初対面の高校生同士が仲良くなっていくプログラムです。グループで料理をつくって食べる。一気に打ち解けます。

いまはないのですが、大学近くの研修センターで2泊しました。朝はラジオ体操。大学に移動して講義、ディスカッション。クロスカントリーでは私も、真田さんも、一緒に走りました。パラスポーツの体験や、英語でのディスカッションもしました。





中京大学でも「第4回 JOA ユースセッション」が開催され、エストニアのウレヌムレ派遣メンバーが選ばれました。筑波大学附属坂戸高校の藤原亮治先生が引率です。

写真の中央にいるスーツ姿はオレフさんです。スロバキア大会で私と同室だった方です、この方、実は校長先生だったんです。

**日本オリンピックアカデミー
第4回ユースセッションinつくば
クーベルタン-嘉納ユースフォーラム2016**

<ガイダンス>

2016年12月23日(金) 12:30~13:30
筑波大学体芸棟 5C301教室

主催：特定非営利活動法人日本オリンピックアカデミー(NPO法人JOA)
共催：筑波大学オリンピック教育プラットフォーム(CORE)
特定非営利活動法人サロン2002(NPO法人サロン2002)

**JOA & 中京大学主催
第4回JOAユース・セッション(仮称)
兼 国際クーベルタン-ユースフォーラム代表選考会**

2016年12月24日(土)~12月28日(月) 2泊3日

会場：中京大学国際センター(CIC)
対象：高校生の高校生(中学校卒業後2年以内) 高校生(高校2年生以上)
参加費：参加費は無料(宿泊費は別途) 詳細は募集要項をご覧ください
募集要項：募集要項(日本語) 募集要項(英語) 申し込み(日本語) 申し込み(英語)
お問い合わせ：事務局 事務局(日本語) 事務局(英語)

◆東京都高体連主催の国内 YF
2017 年末は、国際 YF の選考会ではありませんが、東京都高大連研究部主催でクーベルタン-嘉納ユースフォーラム 2017 を開きました。土曜日の午後と日曜日にかけて、筑波大附属高校桐陰会館に通いで行いました。目的には「2020 年以降も高校生対象の国内ユースフォーラムを続けていくための組織づくりに貢献する」を掲げています。多くの学校が参加し、とても充実していました。

2017ウレヌムレ(エストニア)

引率教諭：藤原亮治(筑波大学附属坂戸)

運営スタッフにはNPOサロン2002の嶋崎さんや小池さん、高体連研究部は庄司一也部長で、意欲的に取り組んでくださいました。

クーベルタン-嘉納ユースフォーラム2017
<オリエンテーション>
2018年3月10日(土)13:00~13:50
桐蔭会館 大ホール

主催：東京都高等学校体育連盟研究部
特定非営利活動法人サロン2002
協力：筑波大学オリンピック教育プラットフォーム(CORE)

本フォーラムの【目的】

- 2020年へ向けて、高体連加盟校の生徒・教員が、
1)オリンピック・ムーブメントやオリンピズムを理解し、
2)学校や競技種目を越えて人的交流をはかる
- 2020年以降も高校生対象の国内ユースフォーラムを続けていくための組織づくりに貢献する

94

**学校や競技種目を越えて
人的交流を図る**

◆参加校(引率教諭)	◆運営スタッフ
・筑波大学附属高校(中塚義実)	・NPO法人サロン2002
・筑波大学附属駒場高校(登坂大樹)	中塚義実(高体連研究部)
・帝京高校(古谷由紀)	嶋崎雅規
・都立松原高校(塩田伸隆)	小池 靖
・都立立川高校(田中康之)	・高体連研究部
・都立清瀬高校(鞠子智秋)	庄司一也
・都立東村山高校(阿部一臣)	塩田伸隆
・日本学園高校(堀越和彦)	南部 健(千葉県)
	・各学校の引率教諭

2日間、よろしくお願いします!

◆第12回国際 YF (フランス・マコン)

クーベルタン-嘉納ユースフォーラム2018と第6回 JOA ユースセッションが2018年12月末に行われ、そこで選ばれた人が2019年の第12回国際 YF、フランスのマコンに派遣されました。引率は自由学園の山田恵子先生です。



Ⅲ. コロナ禍を経て—今後に向けて

◆クーベルタンスクール・ネットワークと国際・国内 YF

クーベルタンスクールのネットワークは、CIPC のオフィシャルサイトに掲載されています。

<https://www.coubertin.org/knowledge-transfer/international-network-of-coubertin-schools/map-of-the-international-network-of-pierre-de-coubertin-schools/>

日本からは Winners of the National Coubertin Youth Forum Organized by the Japan Pierre de Coubertin Committee ということになっています。北米にはクーベルタンスクールがないんですね。

国際 YF はこれらの学校や国が持ち回りで、第 12 回のマコンまで 2 年ごとに開かれ、2021 年はキプロス開催が決まっていた。日本ではありません。しかしご存知の通り、新型コロナが世界を一変させます。

ここまでの話を整理しておきたいと思います。第 10 回国際 YF への派遣生徒選考会としてクーベルタン-嘉納ユースフォーラム 2015 が初開催されました。その後、第 3 回 JOA ユースセッションが、選考会ではないけど 2016 年 3 月に開かれます。第 4 回ユースセッションという冠をつけた形でクーベルタン-嘉納 YF が開かれ、エストニアへの派遣生徒が選考されました。クーベルタン-嘉納 YF2017 は選考会ではなく、東京都高体連研究部と NPO サロン 2002 主催で開催されます。翌年はマコン大会の選考会を兼ねたユースフォーラムです。2019 年の年末は、選考会でない YF が東京都高体連研究部と NPO サロン 2002 主催で通いで開かれ、JOA ユースセッションも行われました。

そしてコロナの時代です…。

クーベルタン-嘉納YF と JOA ユースセッション	
第8回 2011年 北京(中国)...筑附高から2名	担い手は、CORE/JOA/サロン2002
第9回 2013年 リレハンメル(ノルウェー)...筑附高から2名	高体連研究部など
★クーベルタン-嘉納ユースフォーラム2015	
2015年3月13日(金)～15日(日) 筑波大学 32名(男18、女14)	
第10回 2015年 ビエスチャニ(スロバキア)...日本から7名	
第3回 JOA ユースセッション	
★国際YF選考会を兼ねる	
2016年3月22日(火)～24日(木) 中京大学豊田キャンパス 32名(男18、女14)	
★クーベルタン-嘉納ユースフォーラム2016(兼JOA第4回ユースセッションinつくば)	
2016年12月23日(金祝)～25日(日) 筑波大学 31名(男14、女17)	
★第4回 JOA ユースセッション	
2016年12月24日(土)～26日(月) 中京大学豊田キャンパス	
第11回 2017年 ウルヌルメ(エストニア)...日本から7名	
クーベルタン-嘉納ユースフォーラム2017 主催:東京都高体連研究部とNPOサロン2002	
2018年3月10日(土)PM～11日(日) 筑波大学附属高校(通い) 48名(男27、女21)	
第5回 JOA ユースセッション	
2018年3月22日(木)～24日(土) 中京大学豊田キャンパス	

クーベルタン-嘉納YF と JOA ユースセッション	
★クーベルタン-嘉納ユースフォーラム2018	
★国際YF選考会を兼ねる	
主催: CORE/共催: NPOサロン2002/協力: JOA	
2018年12月23日(日)～25日(火) 筑波大学 24名(男6、女18)	
★第6回 JOA ユースセッション	
2018年12月23日(日)～25日(火) 中京大学豊田キャンパス 24名	
第12回 2019年 マコン(フランス)...日本から6名	
クーベルタン-嘉納ユースフォーラム2019	
主催: 東京都高体連研究部およびNPOサロン2002	
2019年12月21日(土)PM～22日(日) 筑波大学附属高校(通い) 28名(男7、女21)	
第7回 JOA ユースセッション	
2019年12月25日(火)～27日(木) 中京大学豊田キャンパス	
そしてコロナへ	
★クーベルタン-嘉納ユースフォーラム2020兼 第8回 JOA ユースセッション	
主催: CORE、中京大学	
2020年12月26日(土)～27日(日) オンライン	
共催: CJPC、サロン2002、JOA	
高校生32名(男11、女21)	
協力: 東京都高体連研究部、中京大学スポーツミュージアム	
幻回 2021年 キプロス(当初予定) ... コロナ禍で中止	

◆コロナ禍の国際・国内 YF

2021年に予定されていたキプロス大会への派遣生徒を選考しなくてはなりません。コロナ禍で何ができるかを検討し、すべてオンラインでの開催となりました。CORE と中京大学が主催、共催には 2019 年 8 月に設立した CJPC と、NPO サロン 2002、JOA が加わり、2020 年 12 月 26～27 日に行いました。

手探りではありましたが、初日の講義はできません。中京大学ミュージアム活動は、スポーツミュージアムにカメラを入れて展示を鑑賞し、お題に沿ってグループ討議をするものです。グループ討議は難しそうでしたが、チャレンジしました。意外にできましたが、英語の討議はグダグダになったところが多かったようです。32名から7名を選考しましたが、キプロス大会は翌年に延期となり、「幻回」となってしまいました。

国内ユースフォーラム2020
クーベルタン-嘉納ユースフォーラム2020
兼 第8回JOAユースセッション

<オープニング>

2020年12月26日(土)~27日(日) 9:00~17:00
オンライン(ZOOM利用)

主催:筑波大学オリンピック教育プラットフォーム(CORE)
中京大学 2019年8月に設立したCJPCが「共催」に加わる
共催:日本ピエール・ド・クーベルタン委員会(CJPC)
特定非営利活動法人サロン2002(NPO法人サロン2002)
特定非営利活動法人日本オリンピックアカデミー(NPO法人JOA)
協力:東京都高等学校体育連盟研究部
中京大学スポーツミュージアム

プログラムとスケジュール

<p>■12月26日(土)</p> <p>9:00~10:00 オープニング</p> <p>10:10~11:00 講義① オリビズムとクーベルタン(田原淳子)</p> <p>11:10~12:00 講義② オリンピックと疫病(真田久)</p> <p>13:00~14:50 講義③ 国際スポーツ大会におけるおもてなしの心(江上いずみ)</p> <p>15:00~17:00 演習① 中京大学スポーツミュージアム活動</p>	<p>■12月27日(日)</p> <p>9:00~10:20 演習② OVEPを用いたグループ活動</p> <p>10:30~12:00 演習③ 英語での討議</p> <p>13:00~15:00 演習③ まとめと発表(日本語)</p> <p>15:10~16:00 オンラインエクササイズ</p> <p>16:00~16:45 クロージング</p> <p>※課題レポート 12月28日(月)中に提出</p>
--	---

国内ユースフォーラム2020参加校・人数

筑波大学附属高校	3名(女3)
筑波大学附属坂戸高校	2名(女2)
帝京高校	8名(男6、女2)
自由学園男子部・女子部	6名(男2・女4)
クラーク記念国際高校	2名(男1・女1)
中京大学附属中京高校	11名(男2・女9)
計32名(男11・女21)	

注)オンラインで初開催/国際YF選考会を兼ねる



翌年も2日間、オンラインで開催しました。海外からのオブザーバー参加もありました。オンラインエクササイズもできました。7名の高校生が選考されましたが、コロナ禍は続きます。それに加えてウクライナにロシアが侵攻し、キプロス開催は断念となってしまいました。しかし主催のCIPCは何とかして継続したいと考え、2022年11月にミュンヘンで第13回大会を開催することになりました。参加者数も絞られ、日本からは5名となりましたが、ミュンヘン五輪50周年ということで無事開催できました。引率は中京大中京高校の内藤智先生です。しかし今のところ、国際YFの開催はこれ以降ありません。CIPCの担当者が代わったことありますが、再開へ向けて検討はされているようです。

国内 YF は CJPC 主催で、2022 年は初日オンライン、2 日目対面で行いました。運動プログラムでモルックをやりました。翌 2023 年も対面とオンラインで年末に開催。東海地区の参加者が中京大附の 1 名だけだったので東京に来てもらいました。テーマはリスペクトです。2024 年も年末の 12 月 25～26 日開催です。この日程、なかなか厳しいんです。スポーツとジェンダーというテーマを掲げました。

ここまでずっと年末に行っていたのですが、クリスマスにかかるこの日程は、参加する方も主催する方も厳しいんです。そこで 2025 年度は 11 月に変更しました。2026 年も 11 月開催で準備を進めています。



◆今後に向けて

まとめに入ります。今後に向けて何を為すべきかの私見です。

「オリンピズムを教育に！」

日頃の教育活動を、オリンピズムの観点から見直し、実践し、発信し続けることが大切です。各教科、体育だけじゃありません。どの教科も、特別活動も課外活動も。はっきり言ってオリンピック教育の「オリンピック」はいらないんです。本来の“教育”のことなんです。

「世界に羽ばたく人材を！」。

今後に向けて
一何を為すべきか(私見)

オリンピズムを教育に！ 世界に羽ばたく人材を！

<p>日頃の教育活動を「オリンピズム」の観点から見直し、実践し、発信し続ける！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科 ・道徳 ・総合的な学習/探求 ・特別活動 ・課外活動 <p style="text-align: center;">本来の“教育”の追求</p>	<p>国内外のさまざまな機関と連携を図り、グローバル人材の育成を図る！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学間の連携 ・学校種間の連携 ・国際/国内組織間の連携 IOC・IPC/JOC・JPC、IOA/JOA、CIPC/CJPC、OSC ...etc. ・高体連・高文連等との連携 ・NPOとの連携 <p style="text-align: center;">“タレント”の発掘・育成</p>
--	--

国内外のさまざまな機関と連携を図り、グローバル人材の育成を図るということです。いまは筑波大と中京大だけですが、もっと広げていきたい。高校と大学、学校種間の連携、そして国際・国内組織間の連携。IOCやパラリンピックのIPC、JOCとJPC。IOAとJOA。CIPCとCJPC。高体連や高文連との連携、NPOとの連携。これらを通して“タレント”の発掘・育成。スポーツタレントだけではありません。どの分野においても、世界に羽ばたくタレントを見つけ育てていきたいと考えます。

オリンピック教育とは、クーベルタンや嘉納治五郎が求めた“真の教育”のことです。クーベルタンはこんなことを言っています。See Far、Speak Frankly、Act Firmly。嘉納治五郎は精力善用、自他共栄。先人の教えに学びつつ、既存の活動を見直し、充実・発展させることが大切です。

「スポーツを通しての“ゆたかなくらしづくり”」を“志”に掲げるサロン2002に寄せるなら、オリンピック教育とは嘉納治五郎の頃から日本で進められてきた全人教育のことです。この「全人」も不要です。全人じゃない教育なんてあり得ない。文字通り“教育”のことです。ホンモノを求め、日本から世界に発信していきたいというところでは

長々としゃべりましたが、以上です。

◆質疑応答②

中塚：あと10分ぐらいしかありませんが、質問や感想、意見など、どんな観点でもかまいませんのでお願いします。まずは嶋崎さん。長らく共にやってきた仲間として、補足あるいは、改めてあゆみを振り返っての感想などをいただけますか。

嶋崎：歩みを振り返るところは中塚さんの話で十分皆さんに伝わったと思います。これからどうしていくかというところで、先ほど校種間の連携がありましたが、大学生に参加してもらうことを何度かやってみましたが、とてもよいと思っています。私のいる国際武道大学は、基本的に競技一辺倒でスポーツに取り組んできた人間ばかりです。私は講義の中で、そういう競技一辺倒のスポーツ観をぶち壊すような話をよくしていますが、そういう中でも興味を持って参加してくれる学生がいます。多くの学生は教員志望なので、高校生と直接触れ合っ話ができる機会をかなり求めています。大学生が高校生に学ばせてもらって帰ってくるようなところが、帰ってきた学生と話をするので、是非広げていきたいと思っています。

あと、やはり国際YFに行くというのは、皆川さんは行かれたのでよくわかりだと思えますが、高校生にとってもものすごく大きな機会だと思います。ぜひ今後もそういうことを続けていけたらと思います。いま中断しているのはちょっと残念です。

中塚：ありがとうございます。他の方、いかがですか？

野村：素晴らしい取り組みだなと思います。僕はいま53歳ですが、こういうのに参加できたら本当に人生変わりそうだなって感じます。若い方たちがこのような体験をするのって大切なことだな。素晴らしい活動だなと思いました。

中塚：ありがとうございます。若い年代でこれを体験されたご本人として皆川さんから。いま2月28日のCJPC総会・研究会へ向けて、国際YF経験者のネットワーク作りをしていて、その人たちから感想をもらってるんですね。

皆川：はい。生の声は28日に皆さんで共有できたらいいなと思っています。当時は率直に、興味を持って参加させていただいたのですが、社会人になった今思い返すと、先生方が目先の利益にとらわれず、純粋に高校生に面白い体験をさせたいという思いで動いてくださっていたことに改めて感謝しています。それと、自分が参加して10数年経っていますが、改めて高校生って忙しいと感じます。学校という狭い環境の中が全てになりがちで、目の前に選択肢がなければ、自分でチャンスをつかみ取ることは難しい。社会人になればもちろん自分で動けるとは思いますが、高校生は授業・部活・習い事など目の前のことでいっぱいなので。自分は中塚先生のもとにいたからこういう経験ができましたが、そうでない学校もまだまだたくさんあるので、このネットワークが徐々にでも広がればいいなと思っています。いま、限られた生徒さんしか体験できないのが少し残念だなと感じています。

中塚：おっしゃる通りですね。そんな中で新谷さんは、11月の国内YFを体験されました。国際はまだだけど、感想を聞かせてもらえますか。

新谷：先ほど皆川さんがおっしゃった通り、私も今回、たまたまですが参加できて貴重な経験をさせていただき、いまもこうやって素晴らしい話をお聞かせいただいています。普通に毎日を過ごしているだけだったらこういった経験はできなかったと思います。どうやったらこういう素晴らしい経験を、他の人たち、他の学校の人たちも経験できるのかというのは、私も考えないといけないのかなと思いました。

中塚：新谷さんは中学生の頃からJOAのいろんな活動に関わっていたとお聞きしていますが。

新谷：そうですね。たまたま中学で何かしら毎年研究しないとイケない課題がありまして、オリンピックがとても気になり、2020大会もあって勉強しました。オリンピックは競技だけじゃないということを知り、そこから興味を持っていろんな行事に参加し、こういう話をお聞きすることができました。

中塚：素晴らしいですね。他の方がいいですか。

磯：サロン2002に参加させていただいて4、5年でしょうか。はっきり覚えてませんが、このような活動をされていることをほとんど知らず、大変申し訳ないと思いながら、羨ましいなとも思ってお聞きしていました。私に関わる総合型地域スポーツクラブ「くにたちエール」も、これから地域の支援を始めるところです。いろいろな体験を通して若者に学んでほしいというのがすごくあり、そういったストーリーを作っていく中で、いろんな関係団体の方に体験の場を提供してほしいと思っています。いやー、こういう活動がいいですね。くにたちエールも、基盤ができれば是非参加させていただきたいと思いました。

中塚：おっしゃるとおりですね。どんどん広がっていきな。けど広がっていくにはマンパワーもお金も、要するにエネルギーを注がないとイケないわけですね。組織的にしっかりやっけないとイケない。サロン2002も登場人物の一つではありますが、担い手の中心となるのは、2019年に発足したCJPCなのかなと私は思っています。

鈴木崇正さんが話したがっているようですが。

鈴木：そんな「念波」は送ってないですけど、ご指名ありがとうございます。とても重要な活動を教えていただき、感銘しました。

活動の歴史や概要はよくわかったのですが、教育内容のことが気になり、もっと知りたくなりました。クーベルタン男爵が掲げたオリンピズムとアマチュアリズムの結びつきは、当時のスポーツが貴族中心に行われていたので、「余裕のある人がやるから金などもらわない」というのが当然だった。それが、スポーツが大衆化していくにつれて必然性が薄れていく。その大きな分岐点は、ご承知のようにプロ化に転じた1984年ロサンゼルス五輪ですが、その前の1970年代にはすでに、オリンピック憲章からアマチュアリズムという言葉が外れているんですね。それで、最近のオリンピック憲章はどうなっているのかと思って、話を聞きながらネット情報を見ていたら、細かな条文は2、3年に一度ぐらいのペースで改訂されていました。憲章自体も結構なペースで変わっているものなんですね。ですから、先生がリードされてきたこの活動も、学生さんたちに伝える内容を常にキャッチアップしていく必要が結構あるのかなと思いつつお話を伺っていました。そのあたりはどうでしょうか。

中塚：おっしゃる通りですね。IOA とのつながりで JOA が、新しい情報を得る場としてあるのかなと思っています。行ける時には私も JOA の集まり行くようにしていますが、去年だったかな、AI との関わりがオリンピックムーブメントの中で大きなテーマになっているという話が出ていました。日頃から私も感じていることです。このあたりも含め、最新情報をしっかりキャッチアップして高校生向けにアレンジしていかなあかなと思っていますところ。

鈴木：わかりました。ありがとうございます。

中塚：そろそろ時間ですが、せっかくなので、今回真っ先に申し込んでくださった朝日新聞の中小路さんから感想をいただけないでしょうか

中小路：ご指名ありがとうございます。最初に申し込んだだけでこういう場がいただけるのはありがたいです。

僕がこういうところに参加する以上、記事を書くために何か仕入れてやろうという思いで当然来ているわけなんですけど、正直難しいですね。これをどのように紹介すればいいのかというのが。ちょっとつかめないというのが正直なところ。最後に中塚先生がおっしゃったように、別にオリンピックとかオリンピズムという言葉はいらない、“教育”なのだということはそうだなと思うんです。すると、そういうものであるなら、都道府県単位でできちゃうなど、聞きながら思いました。ではどこがやるのかという話にはなるとは思いますが…。何か書きたいとは思っています。

中塚：書いてもらうヒントがあるとするなら、2月28日にGJPCの対面総会と研究会があり、研究会で今日の話半分ぐらいに縮めたバージョンをし、後半は皆川さんの仕切りで歴代の国際YF参加者の座談会を予定しています。そこにお越しいただけると、もう少しフォーカスされた中身になるかもしれません。また案内を送ります。

ということでちょうど時間です。今月の公開サロンはこれにておしまいにします。残れる方はこのまま残って飲み食いしながらおしゃべりを続けましょう。ありがとうございました。

(続きはオンライン懇親会)

【参考】第8回～13回 国際YF報告ほか (NPOサロン2002HP)

- ◆2011年9月30日 国際ピエール・ド・クーベルタンユースフォーラム報告
ー北京で感じ、考えた、「オリンピック教育」の現状と今後(中塚義実)
https://www.salon2002.net/src/pdf/monthly_report/2011/2011-9.pdf
- ◆2013年9月24日 オリンピック教育の行方
ー第9回 国際ピエール・ド・クーベルタン・ユースフォーラムで感じたこと(中塚義実)
https://www.salon2002.net/src/pdf/monthly_report/2013/2013-9.pdf
- ◆2015年9月30日 スロバキアへ行ってきました
ー第10回 国際ピエール・ド・クーベルタン・ユースフォーラム報告(中塚義実)
https://www.salon2002.net/src/pdf/monthly_report/2015/2015-9.pdf
- ◆2017年9月15日 エストニアへ行ってきました
ー第11回 国際ピエール・ド・クーベルタン・ユースフォーラム報告(藤原亮治)
https://www.salon2002.net/src/pdf/monthly_report/2017/2017-9.pdf
- ◆2019年10月24日 マコンへ行ってきました
ー第12回 国際ピエール・ド・クーベルタン・ユースフォーラム報告(山田恵子)
https://www.salon2002.net/src/pdf/monthly_report/2019/2019-10.pdf
- ◆2023年2月22日
第13回国際ピエール・ド・クーベルタンユースフォーラム報告(内藤智)
https://www.salon2002.net/src/pdf/monthly_report/2023/2023-2.pdf
- ◆2019年3月27日 サロン2002からのメッセージ② ーオリンピズムを教育に
I. 大河ドラマ「いだてん」～スポーツ史考証の立場から(大林太朗)
II. オリンピズムを教育に(中塚義実)
https://www.salon2002.net/src/pdf/monthly_report/2019/2019-3.pdf

補足. “現実”に目を向けるオリンピック教育

終了後の懇親会で、「オリンピックの“現実”に目を向ける教育も必要ではないか」の意見があった。

まったく同感である。

今回は時間の都合で紹介できなかったが、次のスライドも用意していたのでここに示す。

次の機会に紹介したい。

<p>“理想”や“理念”を語ることは大切！ と同時に、 “現実”に目を向けたい</p> <p>↓</p> <p>「オリンピック、パラリンピック」をめぐって、人類が直面する諸課題がみえる</p> <p>↓</p> <p>“諸課題の解決”は、 “可能性の探求”である！</p>	<p>「オリンピック・ボイコット問題について、 あなたはどのように考えますか？」 大学入試の面接(1980年)</p> <p>「マラソンを40kmでやってくれたら、 2時間枠に収まって放送しやすいんだけど」 あるテレビ関係者から(1990年代)</p> <p>「車の引き手、マラソン失格」1920年 全日本陸上選手権</p> <p>「反応時間の限界「0.1秒」は切ることができる？」 NEWTON 2012年8月号</p> <p>「健常者と一緒に競技をすることで 障がい者スポーツへの注目を集めたい」マルクス・レーーム</p> <p>「福島放射能汚染水は、 完全にコントロールされています」 安倍晋三 中塚担当授業で、高校生・大学生に投げかけるトピック(の一部)</p>
--	---

(文責：中塚義実)